関西大学『社会学部紀要』第37巻第1号, 2005, pp.1－56　　ISSN 0287-6817

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道（3）
―「日朝実務者協議」を報じる見出し語の分析―

木村洋二・板村英典・池信敬子

A "Semio-graphic" Analysis of Headlines Reporting the Story of the Abduction ("Rachi") (3):
Concerning the 3rd Negotiation between Japan and DPRK and the Making Up of the Ash Remains of Megumi Yokota

Yohji G. KIMURA, Hidenori ITAMURA, Keiko IKENOBU

Abstract

In newspapers, the positive or negative weight of the news value ("semio-weight") of an event is supposed to be expressed by the size of headlines and the selection of key words. In our earlier articles, we have analyzed the differences of expression in the headlines reporting the "Abduction" by DPRK (Kimura, Itamura, Ikenobu 2004, 2005).

This articles is to analyze the headlines of the four major newspapers (Asahi, Yomiuri, Mainichi, Sankei) reporting the abduction ("Rachi"), during the 3rd negotiation between the Japanese and North Korean Bureaus (2004.9.9-14). The "ash remains" of the young victim Megumi Yokota were returned from DPRK, but the remains turned out to have been made up later (2004.12.9). Newspapers called for "Economic Sanctions" ("Seisai"), which is also analyzed as a keyword in headlines. The relation between the semantic structure of headlines and the reader's impression is also examined. Our data shows that Sankei and Yomiuri were very positive about sanctions, although Asahi and Mainichi were not so positive about them.

Key words: semio-weight, abduction, sanction, North Korea, newspaper, headline, information, public opinion, agenda, content-analysis, Yokota Megumi, socion

抄　録

私たちはこれまで、北朝鮮による「日本人拉致」問題を日本の4大新聞がどのように報じてきたか、その報道姿勢を、見出し構成のあり方を中心に、2回にわたって分析してきた（木村・板村・池信 2004、2005）。3回目にあたる本稿は、2004年11月9日から14日にかけて平壌で開かれた「第3回日朝実務者協議」に関連して、「拉致」問題を各紙がどのように荷重（重みづけ）して報道したかを分析する。見出しに「拉致」という用語が出現する頻度とその文字の大きさを測定し、時系列で変化を見るために前回同様に「荷重グラフ」を作成する。返還された「遺骨」が偽物であると判明した12月9日以降、各紙とも「経済制裁」の必要を訴える論陣を張った。「制裁」の使用頻度と文字面積についても時系列で荷重グラフを作成した。「制裁」の頻度や使用法にかなり荷重差がみられる。また、「制裁」の文字が含まれている見出し文あるいは文節の構成自体が、読者に正負の異なった印象を与えるのではないか、との仮説から、若干の意味論的構文分析を手がけるとともに、構文法の違いによってもたらされる見出しの分極性と印象強度をたずねる予備的なアンケート調査を試みた。

キーワード：荷重、拉致、制裁、見出し、ソシオン、報道、情報、メディア、北朝鮮、世論、議題設定、新聞、内容分析、横田めぐみ

本稿は北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）による「日本人拉致」問題をめぐる4大新聞の「荷重報道」研究の第3部である。今回は「横田めぐみさんのニセ遺骨」をめぐる各紙の報道を分析する。

Ⅰ　「日朝実務者協議」における「拉致」の荷重分析

2004年11月9日から14日にかけて、日本人拉致問題をめぐる「第3回日朝実務者協議」が北朝鮮・平壌で開催された。今回の協議では、北朝鮮側から「横田めぐみさんの遺骨」とされるものが提示され、日本側代表団が持ち帰った。

しかし、持ち帰った「遺骨」を日本でDNA鑑定を行った結果、それが横田めぐみさんとは別人のものであることが判明した（2004年12月9日）。この「ニセ遺骨問題」以降、日本国内では北朝鮮に対する経済制裁論が高まっていく。

本稿では、日本人拉致問題をめぐる4大新聞の報道について、見出しにおける「拉致」と「制裁」をキーワードに、各紙の見出しにあらわれた「荷重」（＝顕在的・潜在的な重みづけと価値評価の傾向）を定量的・定性的に分析する。

対象と方法

分析の対象は、「第3回日朝実務者協議」を報じる朝日新聞・産経新聞・毎日新聞・読売新聞（以降、(A)朝日・(S)産経・(M)毎日・(Y)読売とする）の朝・夕刊の見出しである。

対象期間は、実務者協議を含む2004年11月9日～18日までの10日間、および、実務者協議において北朝鮮側が提出した「横田めぐみさんの遺骨」が別人であることが判明した、2004年12月9日～18日までの10日間である。

収集した各記事の見出しから、①全見出しの本数（総本数）、②「拉致」の頻度、③「拉致」の文字面積をそれぞれ計測する。なお、巻末には資料として「見出し一覧」（資料1）を添付した[1)]。

見出しから得られた①「総本数」、②「拉致」の出現頻度、③「拉致」の面積の各データを一覧表示したものが、以下の表1.1である。

1）いずれも大阪版の原版を使用した。なお、記事選択の基準となったワードは、日朝実務（者）協議、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）、「北」、金正日（総書記）、拉致被害者およびその家族の氏名、不明10人、遺骨、よど号、拉致、国交交渉、（日朝）正常化、日朝平壌宣言、万景峰号、帰国、核、ミサイル、6か国（6カ国、6者、六カ国）協議、人道（食糧）支援、家族会、拉致議連、救う会、在日韓国朝鮮人、（経済）制裁、圧力、（食糧）支援、日韓首脳会談、盧武鉉、工作員、である。

表1.1　各紙別見出しデータ一覧

	(A)朝日			(S)産経			(M)毎日			(Y)読売		
日付	総本数(本)	「拉致」頻度(回)	「拉致」面積(cm²)	総本数(本)	「拉致」頻度(回)	「拉致」面積(cm²)	総本数(本)	「拉致」頻度(回)	「拉致」面積(cm²)	総本数(本)	「拉致」頻度(回)	「拉致」面積(cm²)
11.9	11	0	0.00	22	1	0.32	6	1	1.28	8	1	0.18
11.10	16	3	2.54	4	0	0.00	7	1	0.32	9	0	0.00
11.11	10	1	0.20	7	0	0.00	4	0	0.00	6	1	0.78
11.12	4	1	2.31	5	0	0.00	6	0	0.00	6	2	0.96
11.13	3	0	0.00	6	0	0.00	6	0	0.00	9	0	0.00
11.14	3	0	0.00	5	2	1.60	4	0	0.00	6	0	0.00
11.15	8	0	0.00	13	0	0.00	11	0	0.00	9	1	4.06
11.16	53	2	1.44	57	6	16.62	46	2	1.20	53	3	16.07
11.17	16	0	0.00	44	3	3.37	22	3	12.20	27	1	4.50
11.18	24	1	1.36	16	0	0.00	24	1	0.18	28	0	0.00
12.9	51	0	0.00	68	2	0.64	28	2	0.64	50	2	1.04
12.10	19	3	0.74	37	3	1.72	14	2	0.78	26	2	0.50
12.11	17	1	3.78	25	1	0.78	21	3	0.72	14	3	2.64
12.12	14	0	0.00	2	0	0.00	10	1	0.32	15	2	1.04
12.13	0	0	0.00	2	0	0.00	2	0	0.00	5	1	0.32
12.14	13	0	0.00	19	0	0.00	8	0	0.00	12	0	0.00
12.15	25	0	0.00	22	1	0.32	15	1	0.32	16	2	2.46
12.16	15	2	0.64	14	0	0.00	15	0	0.00	13	1	1.36
12.17	16	0	0.00	11	1	0.60	34	0	0.00	24	0	0.00
12.18	22	0	0.00	25	0	0.00	18	1	7.83	23	3	3.64
計	340	14	13.01	404	20	25.97	301	18	25.79	359	25	39.55

Ⅰ－1　報道量の全体的比較

「日朝実務者協議」関連見出しの総本数

「日朝実務者協議」に関連する各紙の見出しの総本数は、以下の通りである（表1.2)。

表1.2　「日朝実務者協議」関連見出しの総本数

	本　数
(A)朝日	340
(S)産経	404
(M)毎日	301
(Y)読売	359

４紙の中でもっとも多くの見出しを用いて「日朝実務者協議」を報じたのは、404本の(S)産経であった。逆に、もっとも本数が少なかったのは(M)毎日だった（301本)。

「拉致」の出現回数と面積

以下の図1.1は、期間中の各紙の見出しにあらわれた「拉致」という語句の出現回数と文字面積のそれぞれを計測し、それらの値を合成してひとつのグラフにまとめたものである。図中の黒丸（●）は対象期間中における各紙の「拉致」の出現回数の総数をあらわし、棒グラフは見出しにおける「拉致」の文字面積を合計したものである。

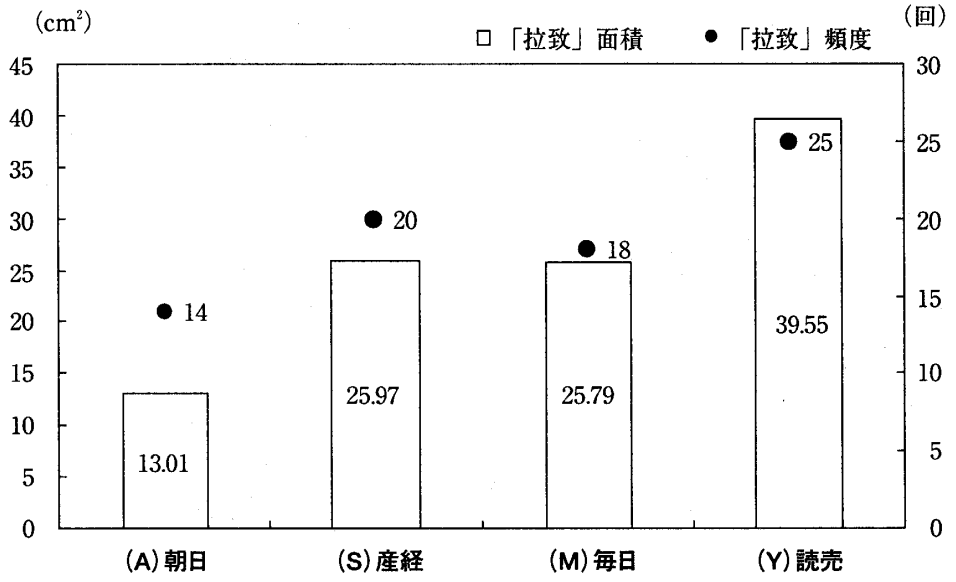


図1.1　「拉致」の頻度と面積の合成グラフ

考察

「拉致」の頻度（●）とその面積をあらわす棒グラフ（□）が突出しているのは、図中の一番右端にある(Y)読売である。(Y)読売は、見出しにおいて25回の「拉致」を使い、4紙の中でもっとも多く「拉致」に関する話題を取り上げていたことが分かる。

さらに(Y)読売は、対象期間中において、見出しで「拉致」という文字をもっとも大きく用いていた（39.55cm²）。見出しにおける文字面積の大きさは、人の会話における「声の大きさ」に相当すると考えられる（木村・板村・池信2004）。(Y)読売は、他の3紙よりも見出しにおいて「拉致」という文字を大きく使って（≒「声」を大きくして）、「拉致」というトピックを報道していたといえる。

(Y)読売に次いで「拉致」の出現回数が多く、その文字面積が大きかったのは、(S)産経と(M)毎日である。(S)産経の「拉致」頻度は20回で、面積は25.97cm²である。(M)毎日の

「拉致」頻度は18回であり、(S)産経の20回とあまり変わらず、また(M)毎日の面積は25.79cm²と(S)産経よりも若干小さいが、ほぼ同じ大きさであった。これらのことから、(S)産経と(M)毎日は、今回の「日朝実務者協議」をめぐる報道において、「拉致」について同じ程度言及し、また、それを同じぐらいの「声」の大きさで伝えていたということが分かる。

(A)朝日は、「拉致」の頻度が14回、面積が13.01cm²と、頻度・面積ともに４番目であった。「実務者協議」の期間中、他の新聞社と比べて(A)朝日は見出しに「拉致」を多用せず、さらにその「声」も小さかったといえる。

Ｉ－2　時系列荷重グラフによる分析

見出しから得られた①見出しの本数、②「拉致」の出現回数、③「拉致」の文字面積の各荷重値を時系列軸上にプロッティングし、それぞれについての「時系列荷重グラフ」を作成する。以下に示す図1.2～1.4は、各新聞社を色別に同一平面上に示している（(A)朝日：赤、(S)産経：橙、(M)毎日：青、(Y)読売：緑）。

作成した３つのグラフを用いて、以下、「実務者協議」の期間中における各紙の報道の特徴を分析する[2)]。

2）なお、2つの離れた分析期間（11月9日～18日と12月9日～18日）を合わせてグラフ化したため、データの得られていない期間（11月19日～12月8日まで）については、グラフ上で空白になっている。

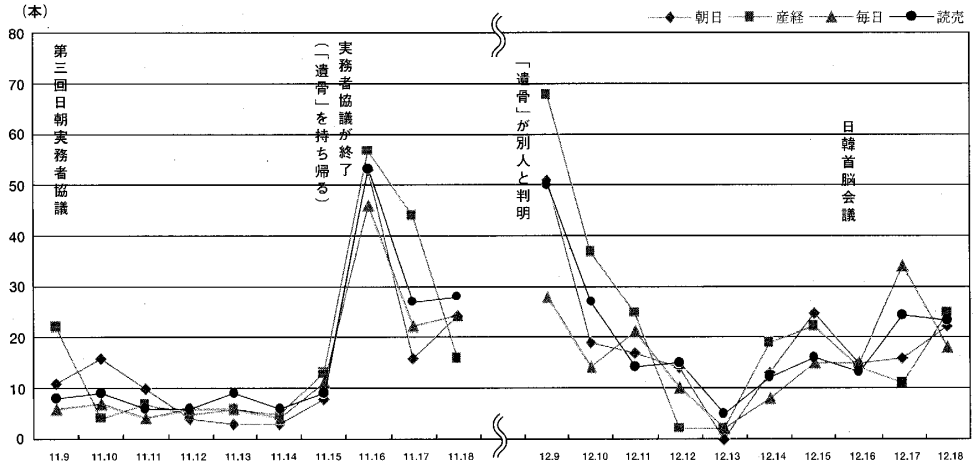


図1.2　「日朝実務者協議」関連見出しの本数の推移

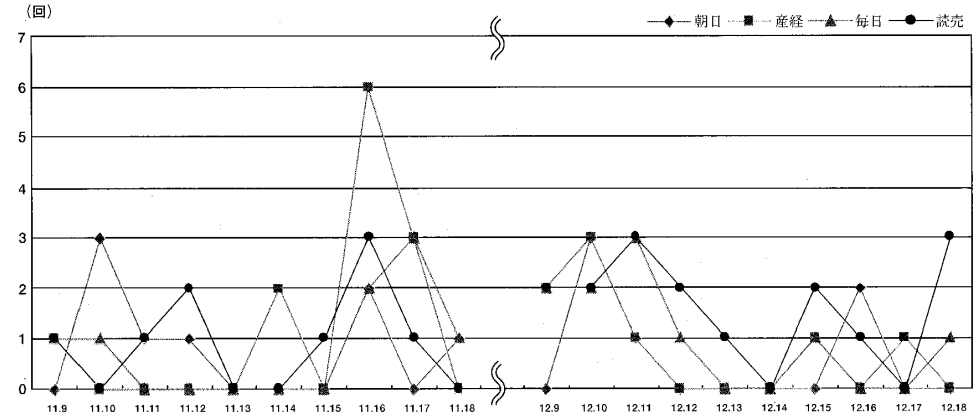


図1.3　「拉致」の出現頻度の推移

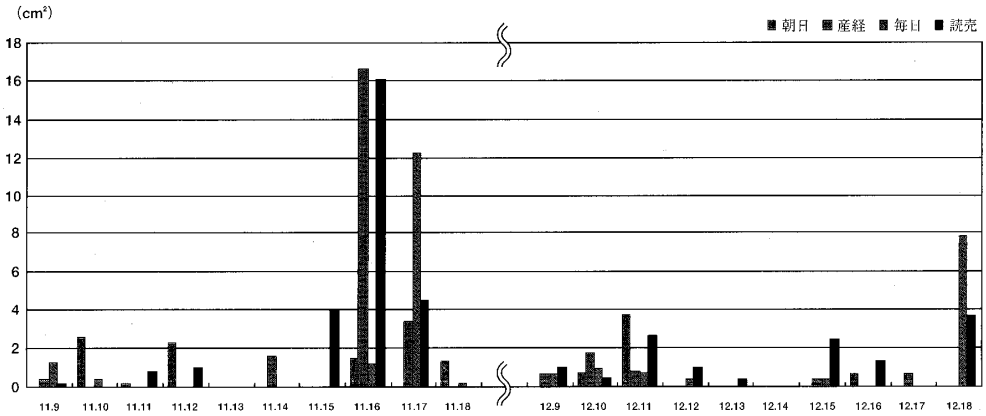


図1.4　「拉致」面積の推移

①　「見出しの総本数」の推移（図1.2）

図1.2は、「日朝実務者協議」に関連する４大新聞の見出しの本数をその日ごとに合計し、時系列軸上に配列して表示したものである。グラフの縦軸は見出しの本数をあらわし、横軸は分析の対象期間（11月9日～12月18日）を示す。グラフにおける折れ線の盛り上がりは、各紙の報道の過熱・集中をあらわしている。

このグラフからは、各紙が期間中のどの時点において報道を集中させていたか（もしくは、させていなかったか）を読み取ることができる。

②　「拉致」の出現頻度の推移（図1.3）

「日朝実務者協議」の新聞報道において、見出しに「拉致」が何回出現したかをその日ごとに集計し、時系列のグラフに表示したものが図1.3である。

このグラフは、各新聞社が見出しにおいて「拉致」について何度言及していたかを示している。

③　「拉致」面積の推移（図1.4）

図1.4は、各新聞社の見出しにあらわれた「拉致」の文字面積を計測し、その日ごとに合算した値を棒グラフで時間軸上に並べて表示したものである。上述したように、見出しにおける「拉致」という文字の大きさは、会話における「声」の大きさに相当すると考えられる。このグラフからは、各紙が「拉致」という言葉をどれほどの「声」の大きさで「叫んだ」かを観察することができる。

考察

①　「見出しの総本数」の推移（図1.2）

図1.2からは、３つの折れ線のピーク（11.16、12.9、12.17）を見て取ることができる。グラフ中の折れ線の盛り上がりは、どの時点で各紙が報道を集中させていたかをあらわしている。

１つ目の11月16日は、日朝実務者協議が終了し、政府代表団が不明10人の日本人に関する安否情報と、横田めぐみさんのものとされる「遺骨」を持ち帰った日である。各紙ともこのことを大きく報じた。

2つ目の12月9日も、各紙でばらつきがあるものの、グラフ上の折れ線が1つの高まりを形成している。この日、北朝鮮側から提出された「遺骨」を鑑定した結果、それが別人の

ものであることが判明する。新聞各社は「遺骨」の鑑定結果や北朝鮮に対する「(経済)制裁」について、多くの見出しを用いて報道した。

3つ目の12月17日は、「日韓首脳会談」が開催されたことを受け、報道量(≒荷重量)が増加している。

以上のように、時系列「荷重グラフ」からは、それぞれの新聞社の報道の高まり(もしくは沈黙)を視覚的に把握することができる。

② 「拉致」の出現頻度の推移(図1.3)

図1.3の「拉致」頻度の推移のグラフからは、以下のことを読み取ることができる。

②ー1 (A)朝日の「沈黙」

「日朝実務者協議」が開催された当日、各紙が共通して「拉致」を1回取り上げた中で、(A)朝日のみが「拉致」について「沈黙」していた。(A)朝日は、翌11月10日に、「拉致」の頻度3回を記録している。

また、横田めぐみさんの「遺骨」が別人のものであることが判明した12月9日の報道において、他紙がいずれも見出しに「拉致」を2回取り上げ問題にしていたが、(A)朝日は「拉致」を1度も見出しに用いていなかった。

②ー2 (S)産経・(Y)読売の「呼びかけ」

(Y)読売が12日、(S)産経が14日にそれぞれ2回の「拉致」を見出しに用いている。(S)産経と(Y)読売は政府代表団が帰国する直前に、「拉致」問題について「呼びかけ」ていたといえる。なお、(S)産経と(Y)読売のこのような報道の傾向は、前稿までの「拉致」の分析(木村・板村・池信2004、2005)においても見出された。

②ー3 (S)産経の「難詰」

11月16日の(S)産経の「拉致」頻度は、期間中最多の6回である。この日は政府代表団が帰国したものの、不明10人の日本人に関する調査結果にさほど進展がなかった。このことを受け、(S)産経は見出しにおいて「拉致」を多用することで、北朝鮮に対して「拉致」の解決を強く求めたといえる。

③ 「拉致」面積の推移(図1.4)

図1.4のグラフからは、以下のような各紙の報道の特徴が観察される。

③ー1 (S)産経・(Y)読売の「大声」

11月16日の(S)産経と(Y)読売は、ともに「拉致」頻度が高く、またその「声」も大きか

った。特に、(Y)読売の「拉致」頻度は3回でありながら、6回の(S)産経に匹敵する「声」の大きさであった。(Y)読売は「拉致」1回あたりの「声」の大きさが大きかったといえる。

③－2　(M)毎日の「後追い」

(M)毎日は、11月17日と12月18日の両日における青色の棒グラフの突出が顕著である。

11月17日における「拉致」頻度は、(S)産経と同じ3回だったが、その「声」の大きさを比較すると、実に約3倍の違いが見られる（12.2cm²）。前日16日の(M)毎日の「拉致」面積は、4紙中もっとも低い数値だったが、1日遅れて4紙中最大の大きさの「拉致」という見出しを用いたといえる。

また、グラフを見ると、12月9日から17日までの間、(M)毎日の「拉致」面積は他紙に比べて小さかったが、18日になって突然大きくなったことが示されている。12月18日の(M)毎日は「拉致」を見出しに1回用いただけだったが、その面積は7.83cm²と非常に大きかった（同日3回の「拉致」頻度をもつ(Y)読売の約2倍）。

以上のように、(M)毎日には「拉致」に関して、他の新聞社に数日遅れてから突然グラフの盛り上がりを見せるような「後追い」の傾向が見られる。

Ⅰ－3　各紙の特徴

次の図1.5は、各紙の「拉致」の頻度と面積の値を合成し、ひとつのグラフに表示したものである。このグラフから、各新聞社が「日朝実務者協議」を報じる際に、見出しに「拉致」をどれほどの頻度と面積で伝えていたかについて、比較・分析する。

考察

(A)朝日

「日朝実務者協議」関連の報道では、4紙中もっとも「拉致」の頻度が低く、またその「声」も小さかった。「日朝実務者協議」が開催された翌日の10日については、他紙よりも大きく「拉致」に関するトピックを提示していた。

「遺骨」が別人であることが判明した12月9日の報道において、他紙が「拉致」を報じる中、(A)朝日だけが「拉致」について1度も触れていなかった。

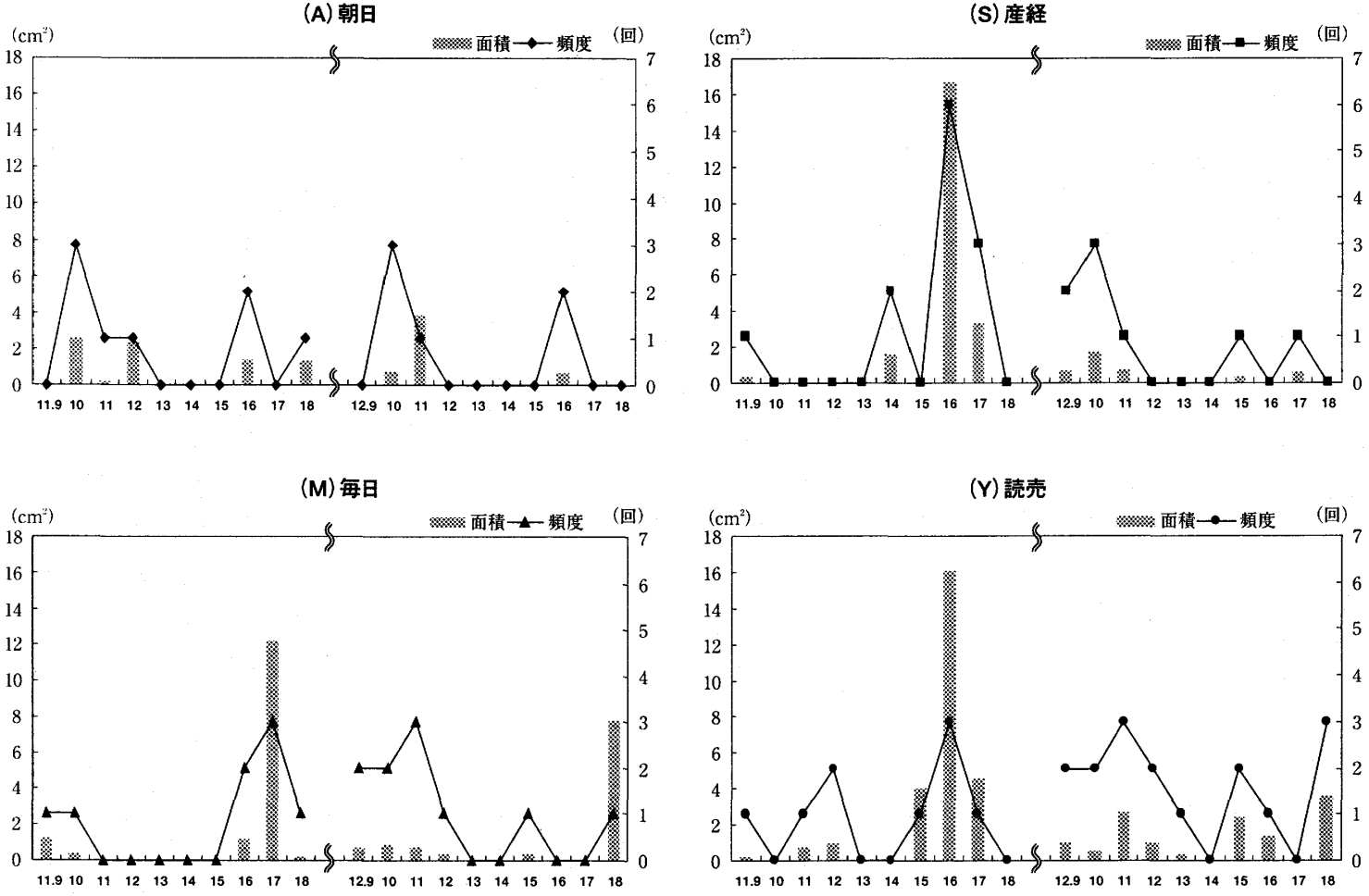


図1.5 「拉致」の頻度荷重と面積荷重の合成グラフ

(S)産経

「日朝実務者協議」が開催された当初の数日間は、「拉致」について沈黙していたが、協議が終了する直前の14日に、単独で「拉致」について呼びかけていた。16日の(S)産経は、対象期間中最大の頻度である６回の「拉致」を取り上げ、また、その「声」についても最大の大きさで「拉致」を報道していた。

後半の12月９日以降の報道においては、「拉致」をあまり取り上げていなかった。これは、横田めぐみさんの「遺骨」が別人であったことから、北朝鮮に対する「（経済）制裁」という別のトピックに報道の関心が移動したためだと考えられる。

(M)毎日

(M)毎日の「拉致」の頻度は全体的に低めであり、また、それを伝える「声」も小さい。しかし、11月17日と12月18日の２日だけは例外であり、面積をあらわす棒グラフの突出が目立っている。(M)毎日は、各新聞社の報道が集中した日の後に、荷重量が増加する傾向がある。

11月16日は、各紙の報道が集中しており、(M)毎日はその翌17日に、１紙のみで報道量のピークを形成し、「拉致」について報道していた。

12月10日から11日にかけて、いずれの新聞社も「拉致」頻度が高くなっている。それからしばらくした後の18日に、(M)毎日は「拉致」面積に関して報道のピークを形成した。この両日の(M)毎日は、非常に大きな「声」で「拉致」（！）と叫んでいたといえる。

以上に示したような(M)毎日における「拉致」の後追い傾向は、前稿までの分析（木村・板村・池信2004、2005）においても見出された。

(Y)読売

(Y)読売は４紙の中で「拉致」を取り上げなかった日（グラフ上の値が０）が６回ともっとも少なく、期間中全般にわたって「拉致」に関する話題を取り上げていた。さらに、11月15日～17日にかけて示されているように、(Y)読売は見出しにおける「拉致」の文字面積がその回数の割に大きかった。

以上のことから(Y)読売は、見出しにおいて「拉致」を何度も取り上げ、また、「拉致」１回あたりの「声」を大きくして報道する新聞社であったといえよう。

Ⅱ　「ニセ遺骨問題」と「制裁」をめぐる報道の分析

「日朝実務者協議」において証拠品として提出された「横田めぐみさんの遺骨」は、DNA鑑定の結果、別人のものであることが判明した。以下の図2.1は、それを伝える12月9日（朝刊）の各紙の1面を並べたものであり、表2.1はその見出しの一覧である。

(A)朝日　(S)産経

(M)毎日　(Y)読売

図2.1　各紙1面（2004.12.9朝刊）

表2.1　各紙見出し一覧

(A) 朝日	(S) 産経	(M) 毎日	(Y) 読売
遺骨　めぐみさんと別人 DNA鑑定で判明 政府 北朝鮮に厳重抗議	めぐみさん「遺骨」は別人 北朝鮮また偽り 2人分のDNA 政府抗議 食糧支援を凍結	めぐみさん「遺骨」は別人 2人分のDNA検出 北朝鮮に政府抗議 食糧支援を凍結	めぐみさん「遺骨」は別人 DNA鑑定で判明 「調査虚偽」北に抗議 政府 追加の食糧支援凍結
食糧支援を当面凍結 政府 経済制裁は慎重に判断	「必ず生存している」 横田さん夫妻ら会見	「夫」のDNA鑑定は不可能 あす拉致特別委 絶対違うと思っていた	「2人分の骨」確認 横田さん家族「許せぬ」 家族会「即時経済制裁を」
「生存信じて運動続ける」 横田さん夫妻	経済制裁論が噴出 首相「交渉は続ける」 DNA鑑定		

Ⅱ－1　見出しのワーディング比較

“食糧支援”の見出しの違い

「遺骨」が別人のものであったことから、各紙とも“抗議”や“食糧支援打ち切り”“経済制裁”などの見出しを使って、北朝鮮に対するさまざまな「圧力」について報じている。

(A)朝日　〈食糧支援を当面凍結〉〈政府〉〈経済制裁は慎重に判断〉
(S)産経　〈食糧支援を凍結〉〈経済制裁論が噴出〉〈首相「交渉は続ける」〉
(M)毎日　〈食糧支援を凍結〉
(Y)読売　〈追加の食糧支援凍結〉〈家族会「即時経済制裁を」〉

各紙の「食糧支援を凍結する」ことを伝える見出しを比較すると、(S)産経・(M)毎日・(Y)読売の3紙はいずれも《食糧支援を凍結》とほぼ断定的に報じている。(A)朝日は、「食糧支援が凍結されるのは、あくまで一時的なものである」ことを示す《当面》という語句を追加し、《食糧支援を当面凍結》という見出しで伝えていた。

さらに、その見出しの位置にも違いが見られる。(A)朝日以外の3紙は、《めぐみさん「遺骨」は別人》というトップの見出しに続けて《食糧支援を凍結》の見出しを配置し、一連の見出しのグループを形成している。それに対して、(A)朝日の《食糧支援を当面凍結》という見出しは、《遺骨　めぐみさんとは別人》というトップの見出しとは別の場所で、見出しのかたまりを形成している。

(A)朝日以外の3紙は「食糧支援の凍結」と「遺骨」とを関連づけて報じており、(A)朝日は「食糧支援の凍結」と「遺骨」を別の問題として伝えていた。

“制裁”を含む見出し

さらに、各紙の“制裁”を含む見出しに注目すると、以下のようである。

(A)朝日　〈食糧支援を当面凍結〉〈政府〉〈経済制裁は慎重に判断〉
(S)産経　〈経済制裁論が噴出〉〈首相「交渉は続ける」〉
(Y)読売　〈横田さん家族「許せぬ」〉〈家族会「即時経済制裁を」〉

(A)朝日・(S)産経・(Y)読売の3紙がいずれも《経済制裁》というワードを用いて、日本の北朝鮮に対する“経済制裁”発動の可能性について触れているが、(M)毎日のみ、《制

裁》という語句を1面のどの見出しにも使用していなかった。

“遺骨”の扱い

見出しにおける《遺骨》という語句の扱いについても、(A)朝日とその他の新聞には違いが見られる。

(A)朝日以外の他紙がすべて《めぐみさん「遺骨」は別人》と、カギ括弧つきの《「遺骨」》を使って見出しにしているのに対し、(A)朝日は《遺骨　めぐみさんと別人》と、カギ括弧なしでそのまま用いている。

(A)朝日以外の3紙の《「遺骨」》には、「北朝鮮側が提出した、いわゆる遺骨とされるもの」という「留保」の意味合いが、カギ括弧によって付与されている。逆に、カギ括弧のない(A)朝日の《遺骨》という見出しからは、「北朝鮮側が提出し、すでに証拠品として確定した遺骨」というニュアンスを読み取ることができる。

“めぐみさんの写真”の扱い

各紙の1面には、横田めぐみさんの写真が掲載されている。各紙のめぐみさんの写真面積を計測すると、以下のような結果が得られた。

表2.2　めぐみさんの写真面積

	写真面積 (cm^2)
(A) 朝日	6.76
(S) 産経	30.78
(M) 毎日	21.06
(Y) 読売	6.72

(S)産経と(M)毎日はめぐみさんの写真を大きく用いており、(A)朝日と(Y)読売は、ほぼ同じ大きさの顔写真を掲載していた。また、(A)朝日と(Y)読売は、これまでの「日本人拉致」報道において用いられてきためぐみさんの顔写真を取り上げ、(S)産経と(M)毎日は、日朝実務者協議において日本政府代表団が持ち帰ってきた写真を用いている。

写真の大きさの違いと合わせて考えると、めぐみさんの「遺骨」というデキゴトに対して大きな関心を寄せていたのは、(S)産経と(M)毎日だったといえる。

Ⅱ－2　「制裁」の頻度と文字面積

「遺骨」が別人であることが判明したことによって、この日以降、日本国内では北朝鮮に対する「(経済) 制裁」論が強まることになった。そこで、以下では、期間中において見出しに出現した「制裁」というワードに注目して分析する。

以下の表2.3は、対象期間中の見出しにおける「制裁」という語句の出現頻度とその文字面積を計測し、一覧表示したものである。

「拉致」の分析と同様に、この表2.3から、①「制裁」頻度と②「制裁」面積のそれぞれの値を時間軸上にプロッティングし、「時系列荷重グラフ」を作成する。

表2.3　各紙「制裁」データ一覧

	(A) 朝日		(S) 産経		(M) 毎日		(Y) 読売	
日付	「制裁」頻度（回）	「制裁」面積（cm²）	「制裁」頻度（回）	「制裁」面積（cm²）	「制裁」頻度（回）	「制裁」面積（cm²）	「制裁」頻度（回）	「制裁」面積（cm²）
11.9	0	0.00	2	1.37	0	0.00	0	0.00
11.10	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
11.11	0	0.00	2	3.69	0	0.00	0	0.00
11.12	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
11.13	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
11.14	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
11.15	0	0.00	1	1.90	1	0.32	1	0.32
11.16	1	2.76	1	1.28	1	0.50	4	13.78
11.17	0	0.00	3	3.92	1	0.32	1	0.32
11.18	1	0.32	0	0.00	1	0.32	2	1.46
12.9	6	7.78	5	22.50	0	0.00	5	15.00
12.10	4	6.30	4	14.52	1	1.28	1	0.78
12.11	2	2.76	2	4.28	3	3.77	1	0.32
12.12	2	0.50	1	0.40	1	0.32	3	0.96
12.13	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
12.14	1	0.18	4	5.33	1	1.28	2	3.00
12.15	2	1.94	4	2.01	2	3.21	2	2.42
12.16	0	0.00	2	7.07	4	1.22	1	1.36
12.17	1	3.78	1	0.50	4	9.91	0	0.00
12.18	1	3.78	1	1.28	1	7.02	2	11.55
計	21	30.10	33	70.05	21	29.47	25	51.27

①　「制裁」頻度の変遷（図2.2）

図2.2は、「日朝実務者協議」において、各紙が見出しに「制裁」という語句を何度用いたかをあらわすグラフである。このグラフからは、各紙がどの時点で「制裁」について言及していたかを観察することができる。

② 「制裁」面積の変遷（図2.3）

また、各紙の見出しにあらわれた「制裁」の文字面積を計測し、それぞれの日ごとに合算した値を棒グラフにして時間軸上に並べたものが、以下の図2.3である。このグラフからは、各紙がどれほどの大きな「声」で「制裁」を伝えていたかを分析することができる。

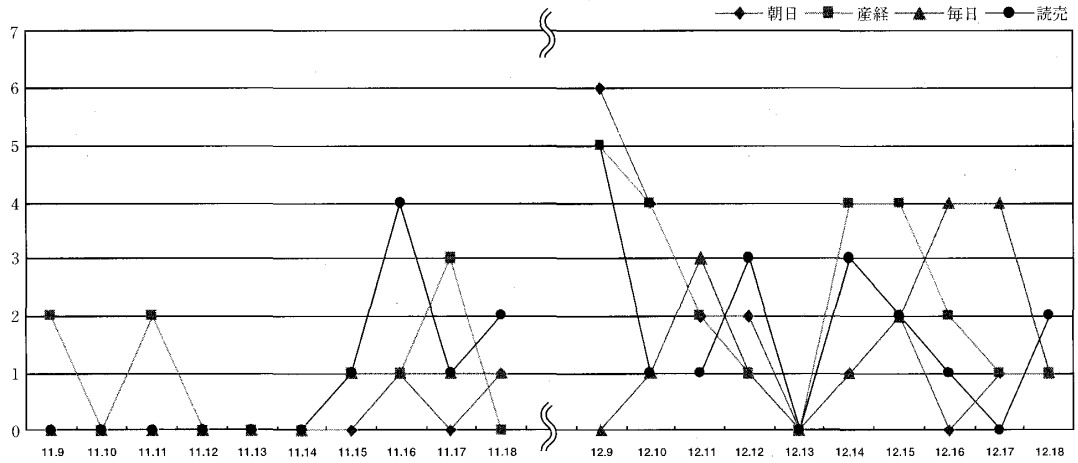


図2.2 「制裁」頻度の変遷

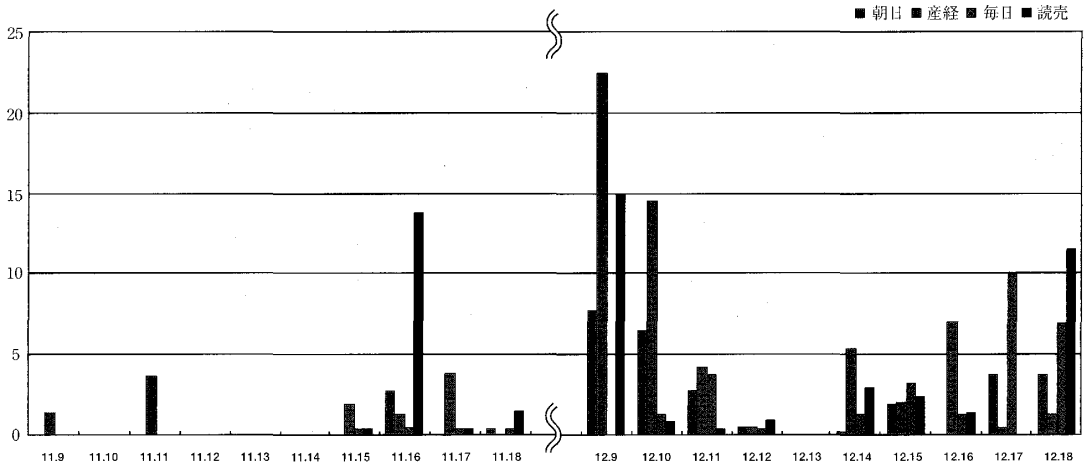


図2.3 「制裁」面積の変遷

考察 （図2.2 「制裁」頻度の変遷）

①—1 (S)産経の「アジェンダ・セッティング」

まず、グラフ上の11月9日から14日における各紙の「制裁」の頻度について比較すると、(A)朝日・(M)毎日・(Y)読売の3紙の値がいずれも0となっている。これは、11月9日から14日までの6日間の新聞報道において、(S)産経を除く3紙が「制裁」という語句を見

出しにまったく使っていなかったことをあらわしている。

それとは対照的に、11月９日と11日に注目すると、どちらも橙色の(S)産経の折れ線の突出が見出される。この両日の(S)産経は、「制裁」というワードをそれぞれ２回見出しに用いていた。

以上のことから、(S)産経は今回の「日朝実務者協議」が開催されるにあたり、北朝鮮に対する「制裁」を念頭に協議に臨む必要性を、他紙に先駆けて主張していたといえるだろう。

①－2　(Y)読売の「要請」

11月16日は、日朝実務者協議が終了し、横田めぐみさんのものとされる「遺骨」が持ち帰られた日である。この日の(Y)読売は４回の「制裁」を見出しに用いて、北朝鮮に対するさまざまな圧力について報道していた。

なお、後に考察するように、この日の(Y)読売は「制裁」の頻度だけでなく、その面積についても４紙中もっとも大きかった。

①－3　(S)産経の「要求」

(Y)読売に遅れること１日、(S)産経は17日において「制裁」を見出しで多く用いた（３回）。(Y)読売と同様、(S)産経においても北朝鮮に対する「制裁」の発動に関する記事が多く取り上げられていた[3)]。

逆に、同日の(A)朝日における「制裁」頻度は０となっており、(A)朝日は見出しで見る限り、北朝鮮に対する「制裁」についてまったく言及していなかったといえる。(S)産経とは好対照をなしていることが、グラフ上に示されている。

①－4　(A)朝日の「呻吟」、(M)毎日の「沈黙」

12月９日、「遺骨」が別人のものだったことを伝える報道において、「制裁」をもっとも多く用いたのは(A)朝日だった。この日の(A)朝日は、見出しに６回の「制裁」を用いており、４紙中最大の頻度だった。「遺骨」は横田めぐみさんの死亡を裏付ける証拠品として北朝鮮側から提出されたものである。しかし、その物証能力を失ったことを受け、(A)朝日は、北朝鮮に対する「制裁」について非常に大きな関心をもって報道したことをここか

3）(S)産経は「日朝実務者協議」の結果を受けて、投書欄に11本の読者の声（電話による緊急質問）と投書1本を掲載した。

ら読み取ることができる。

逆に、同日の(M)毎日は、見出しに「制裁」という語句を一切使用していなかった（0回)。(M)毎日は「遺骨」が別人のものと判明した際、北朝鮮に対するさまざまな政治的圧力を報じる時に「制裁」という直截的な言葉を避けたと考えられる。

①ー5　(M)毎日の「追い上げ」

12月16日と17日に注目すると、(M)毎日は2日間続けて4回の「制裁」を見出しに用い、1紙単独でピークを形成している。(M)毎日は、他紙に数日遅れる形で北朝鮮に対する「制裁」を問題にしたということができる。

他の新聞社があるトピックについての報道が集中する時に「沈黙」し、数日経過してから突然多く取り上げるという(M)毎日特有の「後追い傾向」は、ここにも見出されたといえる。

考察　(図2.3　「制裁」面積の変遷)

②ー1　(Y)読売の「叫び」

11月6日において、(Y)読売をあらわす緑色の棒グラフが突出している（13.78cm²)。(Y)読売は「遺骨」が証拠品として提出された段階で、非常に大きな「声」で北朝鮮に対する「制裁」を叫んでいたということができる。

②ー2　(S)産経の「糾弾」

12月9日、「遺骨」がニセモノであることが判明すると、(S)産経は4紙中最大の大きさで「制裁」というワードを見出しに出して、北朝鮮の不誠実な対応を「糾弾」し、北朝鮮に対する「制裁」を要求した。グラフに示されているように、この日の(S)産経の「制裁」の大きさは、22.55cm²であり、期間中最大のものである。

なお、同日の(A)朝日は最大の頻度（6回）で「制裁」について報じていたが、その面積は(S)産経の約1/3の大きさであった（7.78cm²)。

②ー3　(M)毎日の「日和見」

12月17日は、(M)毎日の棒グラフが群を抜いている。(M)毎日は、17日になってはじめて他紙よりも「声」を大きくして「制裁」について報道した（9.91cm²)。

このように、(M)毎日においては、他の新聞社の報道姿勢を見つつ、ある程度の時間を

おいてから自社の態度を明らかにする「日和見」主義的な報道の特徴を指摘することができる。

Ⅲ　「見出しの印象効果」によるワード荷重の分極

「制裁」というワードの頻度と面積の比較からは、どの時点で各紙が「(経済) 制裁」に関して議題を設定し、また、それをどれほどの大きさで報道していたかを分析することができた。しかし、日本から北朝鮮に対する「制裁」の発動については、新聞社によってそれを肯定的に捉えるか、それとも否定的に捉えるかという2つの立場が想定される。

そこで以下では、「制裁」を含む見出しについてのアンケートを実施し、各紙が「(経済) 制裁」に対して肯定（P/＋）・否定（N/－）のどちらのニュアンスで報道していたのかを分析する。

対象と方法

横田めぐみさんの「遺骨」が別人のものと判明した12月9日から11日までの3日間に限定して、「制裁」という語句を含む各紙の見出し（33本）を抽出し、「見出しの印象効果」に関する予備的なアンケートを行った[4]。アンケートでは、見出しを被験者（40名[5]）に提示し、その見出しから「(経済) 制裁」に対して肯定（支持）・否定（不支持）のどちらのニュアンスを感じるかについて、5段階で評価をしてもらった。5段階の評価点数については以下の通りである[6]。

＋2　…　肯定的な（支持する）ニュアンスを感じる
＋1　…　どちらかといえば肯定的な（支持する）ニュアンスを感じる
0　…　どちらでもない
－1　…　どちらかといえば否定的な（不支持の）ニュアンスを感じる
－2　…　否定的な（不支持の）ニュアンスを感じる

以上のアンケートによって得られた各見出しの評価点数を合計し、33本の見出しの平均

4）「(経済) 制裁」に対する受け手の価値判断は、「制裁」という語句それだけで行われるのではなく、他の見出しとの相補的な意味連関の中で決定されると考えられる。さらに、新聞紙面における「見出しの大きさ」は、その「デキゴトの大きさ」に対応していると捉えることができる。以上のことから、分析においては「制裁」というワードの面積ではなく、他の見出しを含む「見出しの面積」を分析の指標として用いた。
5）評価は関西大学社会学部の学生と大学院生にお願いした。サンプル数としては少ないものの、とりあえずの見出しの評価点数は算出できたといえる。
6）巻末に今回実施したアンケートを資料として添付した（資料2）。

点数を算出した。

以下の表3.1は、今回のアンケート調査で得られた33本の「見出しの平均評価点数」と、それぞれの「見出し面積」のデータ一覧である。

表3.1　各紙別「制裁」を含む見出し一覧

	日付	頁	見出し	平均評価点数（点）	見出し面積（cm²）
(A)朝日新聞	12.9	1	食糧支援を当面凍結 政府 **経済制裁は慎重に判断**	0.35	53.04
		2	揺らぐ対話路線 「遺骨」めぐみさんと別人 **首相，制裁即断避ける**	−0.33	143.36
		4	「遺骨は別人」 与野党から批判噴出 **経済制裁** 世論見据え論争へ	0.63	101.48
		38	**即時経済制裁を** 家族会・救う会	1.03	5.78
			「経済制裁」言うべきだ 重村智計・早大教授（国際政治）の話	1.13	11.49
		39	地村さん父 **「制裁発動して」**	1.15	12.00
	12.10	2	対北朝鮮 **制裁要請　決議へ** 衆院拉致特別委 政府向け　きょう採択	0.73	33.99
			「制裁を視野に」連合が見解示す	0.48	5.78
		4	**首相，制裁なお慎重** 対北朝鮮 野党に「対応見る」	−0.43	33.99
		30	対北朝鮮 **安易な経済制裁は逆効果**	−1.23	33.44
	12.11	4	**政府，制裁論に苦慮** 対北朝鮮，本音は回避	−0.58	33.99
		30	**（投書）経済制裁には冷静な判断を**	−0.70	12.80
(M)毎日新聞	12.10	5	拉致議連 **経済制裁求める決議** 平沼会長 「徹底的に圧力を」	0.75	29.40
	12.11	1	**北朝鮮経済制裁積極検討求める** 衆院拉致特委決議	0.68	7.70
		5	**北朝鮮制裁要求に「分析待ち」** 政府，実態は準備不足	−0.18	67.20
		e-1	対北朝鮮 政府，“最後通告”検討 不明10人情報期限を設定 **不十分なら制裁**	0.80	54.60
(S)産経新聞	12.9	1	**経済制裁論が噴出** 首相「交渉は続ける」	0.10	57.96
		2	**対北制裁　官邸なお慎重** 際立つ“弱腰ぶり” 6カ国協議など影響懸念	0.13	145.30
		14	**（投書）こんなことなら即時制裁を**	1.08	15.87
		e-1	**衆院特別委が経済制裁審議へ**	0.40	6.80
		e-14	「遺骨」別人 **解決へ制裁必要** 横田夫妻会見 「心底ホッとした」	1.25	57.96
	12.10	3	**強まる経済制裁論** 北の動き読めず政府慎重 拉致被害者身辺に危害／調査打ち切り…	−0.33	115.68
			制裁求める決議拉致議連が採択 官房長官に申し入れ	0.53	7.56
		23	**（投書）虚偽説明には制裁以外なし**	1.05	15.64
		e-1	**「北経済制裁　発動を」** 自民党対策本部決議 遺骨鑑定に期限つき回答要求	1.10	135.34
	12.11	3	**閣僚らも「北制裁を」** 衆院特別委決議採択 首相，慎重姿勢崩さず	0.70	50.69
		e-1	**対北経済制裁「先の話でない」** 自民幹事長	0.74	18.36
(Y)読売新聞	12.9	1	横田さん家族「許せぬ」 **家族会「即時経済制裁を」**	1.33	57.33
		2	**経済制裁に首相は慎重**	−0.50	6.12
		3	**強まる経済制裁論** 「遺骨」めぐみさんと別人 対話の限界　浮き彫り 「六カ国協議」に影響も	1.23	26.27
			（社説）“遺骨”は別人 **「北」の愚行が自ら制裁を招く**	1.03	153.51
	12.10	5	**対「北」制裁　要求決議** 拉致議連	0.60	13.14
	12.11	2	**「北」制裁求める** 衆院特別委決議	0.55	6.12

注）・表中の見出し欄のゴシック体は「制裁」を含む見出しを示す。
・頁欄のeは夕刊をあらわす。

本章では、上記のデータにおける「平均評価点数」と「見出し面積」という2つの値をグラフ上に表示し、各紙が3日の間に「制裁の発動」というイッシューを「肯定」・「否定」のどちらのニュアンスで報道し、また、それをどれほどの大きさで報道していたかについて分析する。

Ⅲ−1　見出しの評価点数と面積との関係

①　見出し評価点と面積値（図3.1）

図3.1は、評価してもらった33本の「見出しの評価点数」と「見出しの面積値」を同一

平面上にプロッティングしたものである。X軸（横軸）は見出しの面積、Y軸（縦軸）は各見出しの平均評価点数を示しており、中心線よりも上側の領域がプラス、下側はマイナスの領域をあらわしている。このグラフからは、新聞紙面における「見出しの大きさ（＝量）」とその「評価（＝質）」という2つのベクトル成分値の関係を読み取ることができる。

② 見出しの面積荷重値の推移（図3.2）

次の図3.2は、アンケートによって得られた「見出しの評価点数」に、それぞれの「見出し面積」を掛け合わせ、得られた値を日付ごとにプラスとマイナスの領域に分けて集計したものである。

見出しそれ自体の衝撃度は、「見出しの大きさ（＝量）」と「見出しのプラス・マイナスの印象（＝質）」という2つの荷重要素が合成されたものとしてあらわされる。そこで、見出しのインパクトの度合いを数値化し比較・検討するため、「見出しの大きさ」に「見出しの評価点」を掛け合わせ、各見出しの「（正・負の）面積荷重値」を算出した[7]。

このグラフからは3日間の報道において、各紙が「制裁の発動」に対して「肯定的な見出し（＝正の面積荷重）」と、「否定的な見出し（＝負の面積荷重）」のどちらの重みづけを多用していたかを観察することができる。

③ 見出しの総合評価点数と総面積（図3.3）

最後の図3.3は、正負の評価ごとに分けた見出しの「評価点」と「面積値」を合計し、算出された「総点数」と「見出しの総面積」の各値を2次元平面上にプロッティングしたものである。図3.1と同様、X軸（横軸）は「見出しの総面積」をあらわし、Y軸（縦軸）が「見出し評価の総点数」を示している。X軸を境界線として、上部がプラス、下部がマイナス領域である。

このグラフは、総合的にみて各新聞社が1)「制裁」という用語を含む見出しをどれほどの大きさで報道したか、2) それぞれの見出しが「制裁」発動に対して肯定的と捉えられたか、否定的と捉えられたか、を示している。

7）新聞紙面における「見出し」と、そのデキゴトの「重要性」との関係について、「新聞整理の手引き書」は次のように指摘する。「見出しスペースは、第一に価値判断を示します。大した話でもないのに大きな見出しを付けたり、逆に、大事な記事を小さく扱っては、読者に誤った判断を与えてしまいます。長い記事だからと大きな見出しを付けるのでなく、大切な内容の記事は短くても大きな見出しが必要です」（朝日新聞整理部 1983: 160）。つまり、「見出しの大きさ」はその記事の重要度をあらわす指標だと捉えることができる。

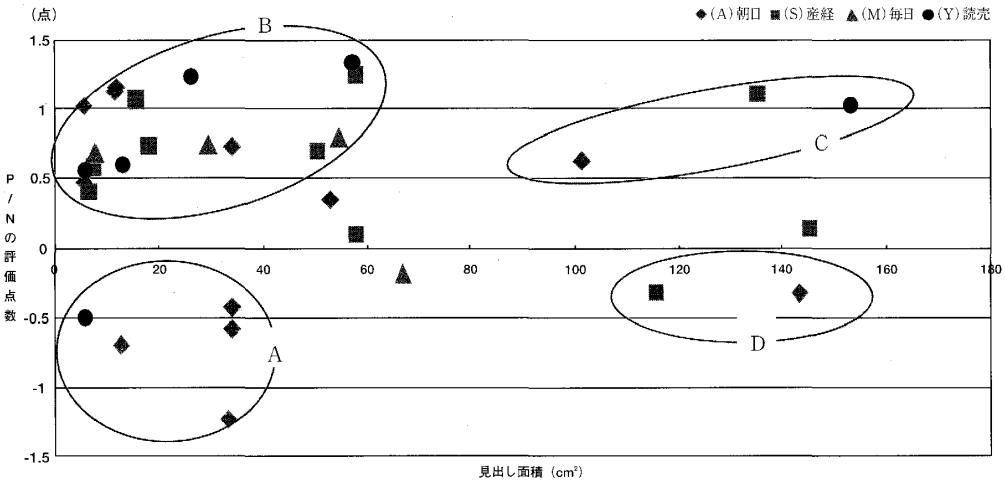


図3.1　見出しの平均評価点と面積値

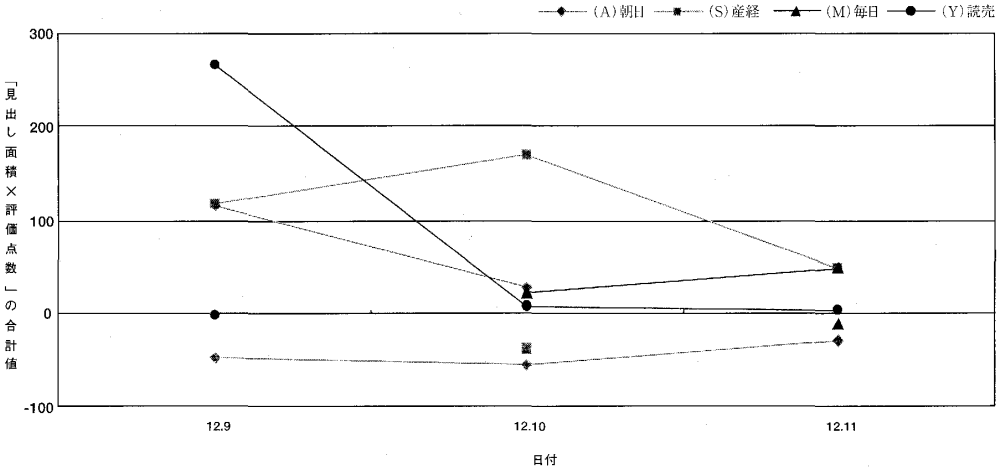


図3.2　見出しの面積荷重値の推移

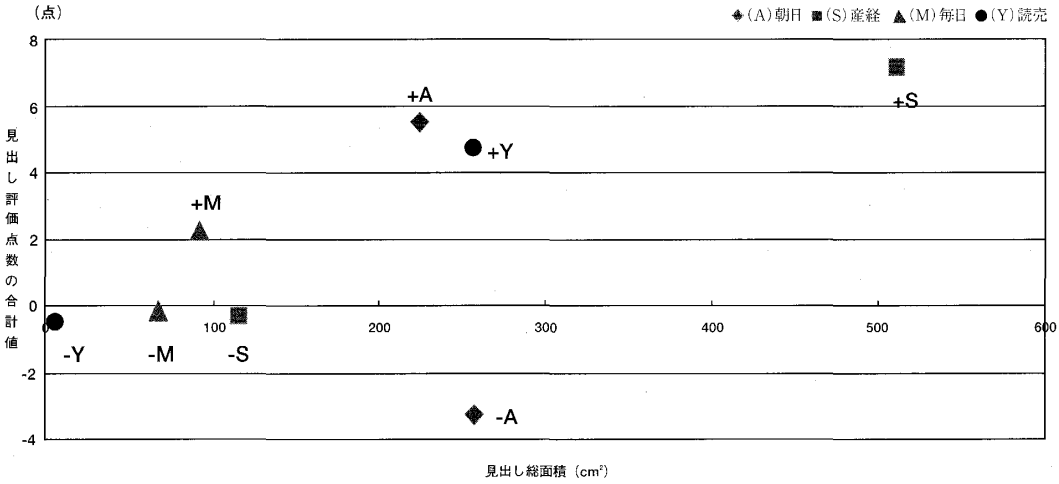


図3.3　見出しの総合評価点数と総面積

考察

①　見出し評価点と面積値（図3.1）

①－1　プラスとマイナスの見出し

まず、中心線より上側のプラス領域と下側のマイナス領域に分けてみると、全体としてプラス領域にプロッティングされているものが多い。これは、３日間の報道全体で、「制裁」に対して「肯定的」な印象を与える見出しが多く用いられていたことを示している。

次に、反対側のマイナス領域に注目すると、合計で８つの点がプロッティングされている。それぞれ(A)朝日が５つ、(S)産経、(M)毎日と(Y)読売が1つずつである。マイナス領域における各紙のマイナスの度合い（強度）を比較すると、(A)朝日は、図中のA領域にある－0.5～－1点以上の強いマイナスの印象を与える見出しを使っていた。

以上のことから、４紙の中で、マイナスの印象を与える（＝「制裁の発動」に対して「否定的」な）見出しを多く用いていた新聞社は、(A)朝日だったといえるだろう。

①－2　評価点数と面積値の関係

見出しの評価点数とその面積との関係に着目すると、以下のような傾向を指摘することができる。

図3.1中左上のB領域には、面積が60cm²までの大きさで、かつ、プラスの評価点をもつ見出しが集中している。この領域で見る限り、見出しの面積が大きくなる（＝60cm²に近づく）につれて、プラスの評価点数が強くなる傾向を見出すことができる[8]。

また、図中の右側のC領域とD領域にある見出しの面積は、いずれも100cm²を超えており、１つの見出しとしては非常に大きいものである。これらの領域における見出しの評価点数を比較すると、C領域にある見出しの評価点数は0.5点～１点以上であるのに対し、D領域のそれは－0.5点以下である。大きな見出しにプラスの評価がつく時にはその点数は高くなり、逆にマイナス評価がつく時には、点数が低くなる傾向がある。限られたデータではあるが、大きな見出しにプラスとマイナスの評価点数がつく場合には、以上のような傾向があると考えられる。

②　見出しの面積荷重値の推移（図3.2）

(A)朝日

負の面積荷重に注目すると、(A)朝日だけが３日間続けて負の面積荷重が見出された。

8）マイナス領域にあるA領域に注目すると、見出しの数は少ないものの、プラス領域の場合と同様の傾向が見受けられる。

(A)朝日は3日間、「制裁の発動」に対して否定的な見出しを載せていたといえる。他紙のそれは(Y)読売が9日、(S)産経が10日、(M)毎日が11日と、それぞれ特定の1日に集中しているのに対し、(A)朝日が3日連続で負の面積荷重を提示していたことは、特徴的である。

(S)産経

10日における各紙の正の面積荷重値は前日に比べて減少しているが、(S)産経の正の面積荷重値は増加を見せている。

(M)毎日

(M)毎日の9日における「制裁」の面積荷重値はゼロである。10日から11日にかけて正の面積荷重が増加しているのは、(M)毎日だけである。「制裁」の報道についても、(M)毎日の「後追い」の傾向を垣間見ることができる。

(Y)読売

9日における(Y)読売の正の面積荷重値は群を抜いている。しかし、10日と11日における(Y)読売はほぼゼロの値に近くなっている。(Y)読売は、9日に「遺骨」が別人であることが判明した際、「制裁の発動」に対して非常に強く肯定する見出しを用いていたといえるだろう。

③ 見出しの総合評価点数と総面積（図3.3）

中心線より上側のプラス領域に注目すると、橙色の(S)産経をあらわす点がもっとも右上の場所に位置している（＋S点）。これは、3日間の「制裁」に関する報道の中で、(S)産経が「制裁の発動」に対してもっとも肯定的な点数が高く、かつ、見出しの総面積が大きかったことをあらわしている（評価点：7.13点、総面積：511.48cm^2）。

反対のマイナス領域では、(S)産経・(M)毎日・(Y)読売の評価点が、ほぼゼロに近い場所に位置している（－S点、－M点、－Y点）。これらに比べて、(A)朝日の点（－A点）はマイナスの評価点と総面積の双方ともに大きかったことを示している。このことから、3日間の報道において、「制裁の発動」に対して否定的な見出しの評価点数が高く、その面積が大きかったのは、(A)朝日だったことが分かる（評価点：－3.27点、総面積：257.58cm^2）。

Ⅲ－2　各紙の特徴

本章では、各紙が「制裁」を含む見出しを用いて、プラスとマイナスのどちらのニュアンスで報道していたかについて分析した。その際、「見出し面積（＝量）」に「印象評価（＝質）」という要素を加味した「荷重グラフ」を用いて、分析を試みた。

最後に、本章の分析によって得られた結果から、各紙の報道の特徴について考察する。

(A)朝日　消極型

12月９日から11日までの３日間、(A)朝日は、「制裁」の発動について報道する見出しは12本ともっとも多かった。そのうち、肯定的な見出しを７本、否定的な見出しを５本用いて報道していた。また、(A)朝日だけが３日間連続して「制裁」に対して否定的な見出しを掲載していた。

４紙の中で、「制裁」の発動について反対の姿勢を強めて報道していたのは、(A)朝日だといえる。

(S)産経　積極型

(S)産経は、「制裁」の発動に関して、11本の見出しを掲載しており、(A)朝日に次いで、２番目に多かった。プラスの見出しが10本、マイナスの見出しを1本と、プラスの見出しを多く用いて報道していた。また、(S)産経の評価点数は、プラスの総合評価点数が４紙中もっとも高く、見出しの総面積についても、最大の面積を用いて報道していた。(S)産経の10日における正の面積荷重値は、他紙に比べて増加している。

以上のことから、(S)産経は、「制裁」の発動に対し、積極的な姿勢を崩さなかったといえる。

(M)毎日　追随型

(M)毎日は、４本（プラスが３本、マイナスが１本）と「制裁」を含む見出しの本数がもっとも少ない新聞社であった。特に、他紙の報道がもっとも集中した９日において、(M)毎日だけが「制裁」を含む見出しを全く用いていなかった。

その後、10日から11日にかけて、他紙が減少の傾向を見せる中で、(M)毎日は見出しの本数が増加した。期間中全体の報道だけでなく、３日間という短期的な報道について観察してみても、(M)毎日の「追い上げ」もしくは「後追い傾向」が見出された。

(Y)読売　激情型

(Y)読売は６本の見出しのうち、プラスが５本、マイナスが１本であった。９日における「制裁」に対する正の面積荷重値の突出が目立っている。逆に、10日から11日にかけて、面積荷重値は極端に減少している。

「遺骨」がニセモノだと判明した際に、「制裁」に対してもっとも積極的な姿勢を示した新聞社は、(Y)読売だったといえる。

Ⅳ　「制裁」を含む見出しと荷重の分極

前章では、「制裁」という同一のワードを見出しに用いながらも、各紙がどのようなニュアンスでそれを報道し、受け手にどのような印象を与えたかについて指標を工夫しながら分析した。

新聞の見出しは、同じ「文字種（フォント）」と「大きさ（ポイント）」で1行の「見出しライン」を形成し、それらが複数集まって1まとまりの「見出しグループ」が構成されている。「制裁」という語句それ自体は、日本の北朝鮮に対するさまざまな「圧力」を端的に示したネガティブ（N/－）なワードである。しかし、「制裁」という語句を含む「見出しライン」および「見出しグループ」には、「制裁」以外にもさまざまな語句が用いられており、それらの語句の存在によって「制裁」に対する受け手の印象は変化すると考えられる[9]。

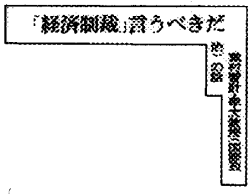
以上のことから本章では、「制裁」を含む見出しをピックアップし、「制裁」以外のどのようなワードが、受け手の印象の形成に影響を及ぼすのかについてアンケートの結果をもとに具体的に検討する[10]。

12月9日から11日の3日間における見出しの中から、プラスの平均評価点数が「1点」以上のものと、マイナスの評価がついた全8本の見出しを以下に抜き出し、それぞれについて考察する。なお、各見出しの後には、「見出しのデータ一覧」を表示した[11]。

Ⅳ－1　「制裁」に肯定的な見出し

①　12月9日　(A)朝日の見出し

(A)朝日12月9日38面(a)



(A)朝日12月9日38面(b)

(A)朝日12月9日39面

図4.1　(A)朝日12月9日のプラス評価の見出し

9）新聞紙面における「見出し」は、一般に、「見出しライン」と「見出しグループ」の双方を指す。「見出し」を研究対象とする場合、これらを区別する必要があるため、本稿では同じ「文字種（フォント）」と「大きさ（ポイント）」で構成された見出しを「見出しライン」とよび、見出しの最小単位として捉える。なお、「見出しグループ」という呼称は、三樹精吉（1966）を参照した。

10）資料として、50%に縮小した見出しを添付した。

11）今回のアンケートでは、各紙の見出し部分のみを抽出し、それらを配列したものについて評価をしてもらった。ここで、受け手がある見出しを評価する際には、その見出し自体から受ける印象以外にも、その周りにある他の見出しの大きさや印象から影響を受ける可能性がある。そのため、「見出し面積」と「評価点数」に明確な対応があるかどうかについては、現段階では分からない。このことから、本章では「制裁」と「見出しの面積」をデータとしてのみ列挙している。なお、アンケート内の見出しの配列については、巻末の資料2を参照されたい。

表4.1　見出しデータ一覧

	「制裁」面積 (cm²)	見出し面積 (cm²)	平均評価点数 (点)
A12.9-38a	0.36	5.78	1.03
A12.9-38b	0.55	11.49	1.13
A12.9-39	0.78	12.00	1.15

図4.1に示した３つの見出しは、いずれも12月９日の(A)朝日のもので、評価点数の平均が１点以上あったものである。

左は、《即時経済制裁を》という家族会と救う会の発言を採用した見出しである。ここでは、“即時”というワードが「制裁」発動の要請を強める印象を与えたと考えられる。

中央は《「経済制裁」言うべきだ》という識者の意見、右側は《「制裁発動して」》という拉致被害者の家族の発言をそれぞれ見出しに引用した。どちらの見出しも、明確な「意見」を見出しに引用することによって、「制裁発動」に積極的な印象が強められたといえる。

②　12月9日　(S)産経の見出し

(S)産経12月9日14面

(S)産経12月9日夕刊14面

図4.2　(S)産経12月9日のプラス評価の見出し

表4.2　見出しデータ一覧

	「制裁」面積 (cm²)	見出し面積 (cm²)	平均評価点数 (点)
S12.9.14	0.32	15.87	1.08
S12.9e-14	5.51	57.96	1.25

図4.2は、12月9日の(S)産経において、プラスの評価が１点以上あった見出しである。

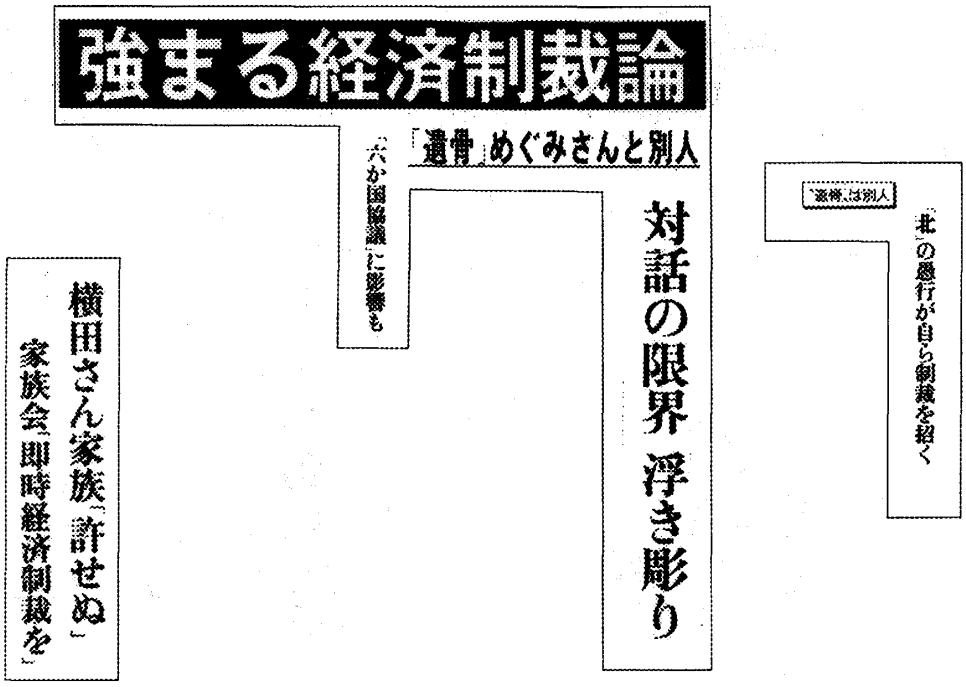
左の見出しは14面の投書である。《こんなことなら即時制裁を》という見出しの中で、“即時”というワードが「制裁」の発動を積極的に求める意見を強めている。

右側は、同日夕刊（14面）の記事につけられた見出しである。横田夫妻の会見を取り上げ、《解決へ制裁必要》という大きな見出しをつけており、“必要”というワードが「制裁を発動すべきだ」という肯定的な評価につながったと考えられる。

③　12月9日　(M)毎日の見出し

12月9日に、(M)毎日は「制裁」というワードを用いた見出しは1本もなかった。

④　12月9日　(Y)読売の見出し



(Y)読売12月9日1面　　(Y)読売12月9日3面　　(Y)読売12月9日3面（社説）

図4.3　(Y)読売12月9日のプラス評価の見出し

表4.3　見出しデータ一覧

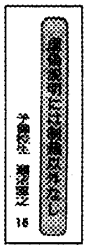
	「制裁」面積 (cm²)	見出し面積 (cm²)	平均評価点数 (点)
Y12.9-1	2.31	57.33	1.33
Y12.9-3	11.28	153.51	1.03
Y12.9-3(社説)	0.91	26.27	1.23

図4.3は、すべて12月9日の(Y)読売の見出しである。左の見出しは、1面に掲載されたものである。この見出しは、北朝鮮がニセモノの「遺骨」を提出したことに対し、《横田さん家族「許せぬ」》という見出しで家族の反発を伝えている。これに続けて、《「即時経済制裁を」》という家族会の意見を見出しに採用した。見出しの中の“即時”というワードが、「制裁」発動を求める家族会の強い姿勢をあらわしている。なお、アンケートに用いた見出しの中で、もっともプラス点数が高かったのは、この見出しである（1.33点）。

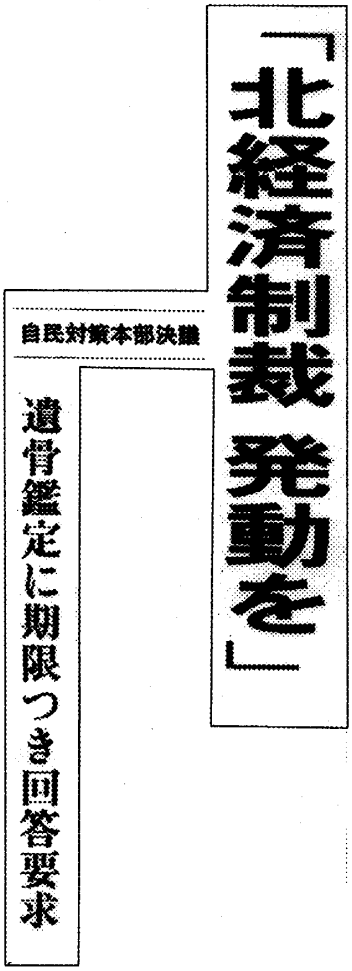
中央の見出しは同日の3面に掲載されたものである。《強まる経済制裁論》という非常に大きな横見出しを用いて、「経済制裁」への要求が高まっていることを伝えていた。また、《対話の限界　浮き彫り》という見出しが、話し合いの余地がなくなったことを強めている。

また、右側の見出しは、(Y)読売の社説（3面）である。《「北」の愚行が自ら制裁を招く》という見出しによって、“「制裁」の発動は、北朝鮮が自ら招いた結果である”という新聞社の意見を表明した。“自ら招く”という言い回しが、「制裁」への強い肯定を印象づけたといえる。

⑤　12月10日　(S)産経の見出し



(S)産経12月10日23面



(S)産経12月10日夕刊1面

図4.4　(S)産経12月10日のプラスの評価見出し

表4.4　見出しデータ一覧

	「制裁」面積 (cm²)	見出し面積 (cm²)	平均評価点数 (点)
S12.10.23	0.32	15.64	1.05
S12.10e-1	11.78	135.34	1.10

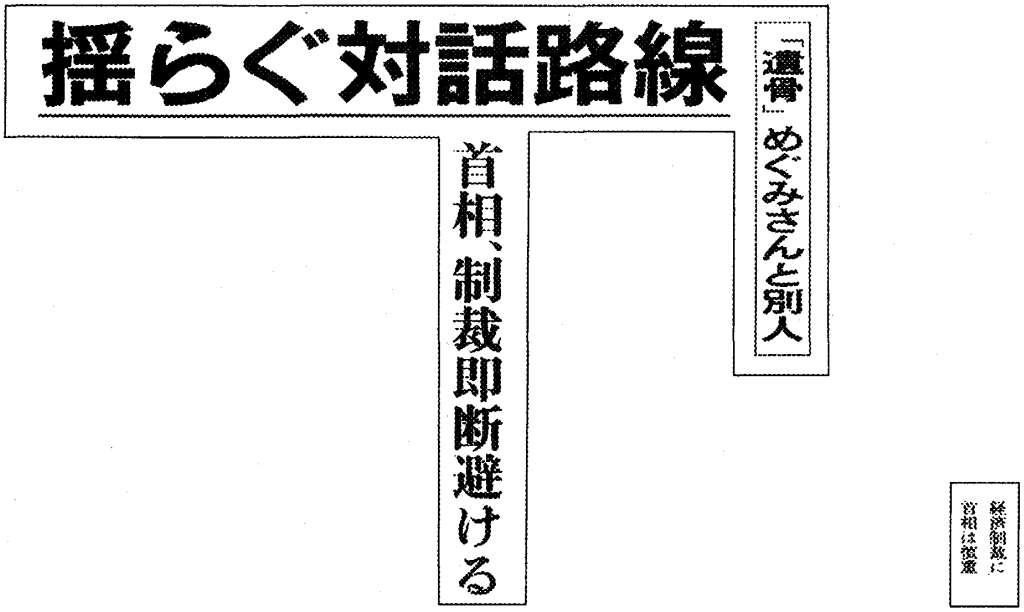
図中左は、(S)産経の投書であり、《虚偽説明には制裁以外なし》という「制裁」発動に積極的な「意見」を見出しに掲載している。社説や投書に代表される「ある意見・立場を表明する記事」の見出しには、“制裁以外なし”などのように、そのデキゴトに対する正負をはっきりと示す言い回しが多い。

図中右は夕刊１面の見出しである。《「北経済制裁　発動を」》という非常に大きな見出しがつけられている。自民対策本部の決議によって、「制裁」の発動が求められたこと

が明確に印象づけられる見出しである。

Ⅳ－2　「制裁」にマイナス評価の見出し

①　12月9日



(A)朝日12月9日2面　　(Y)読売12月9日2面

図4.5　「制裁」にマイナス評価の見出し（1）

表4.5　見出しデータ一覧

	「制裁」面積 (cm^2)	見出し面積 (cm^2)	平均評価点数 (点)
A12.9-2	3.78	143.36	−0.33
Y12.9-2	0.32	6.12	−0.50

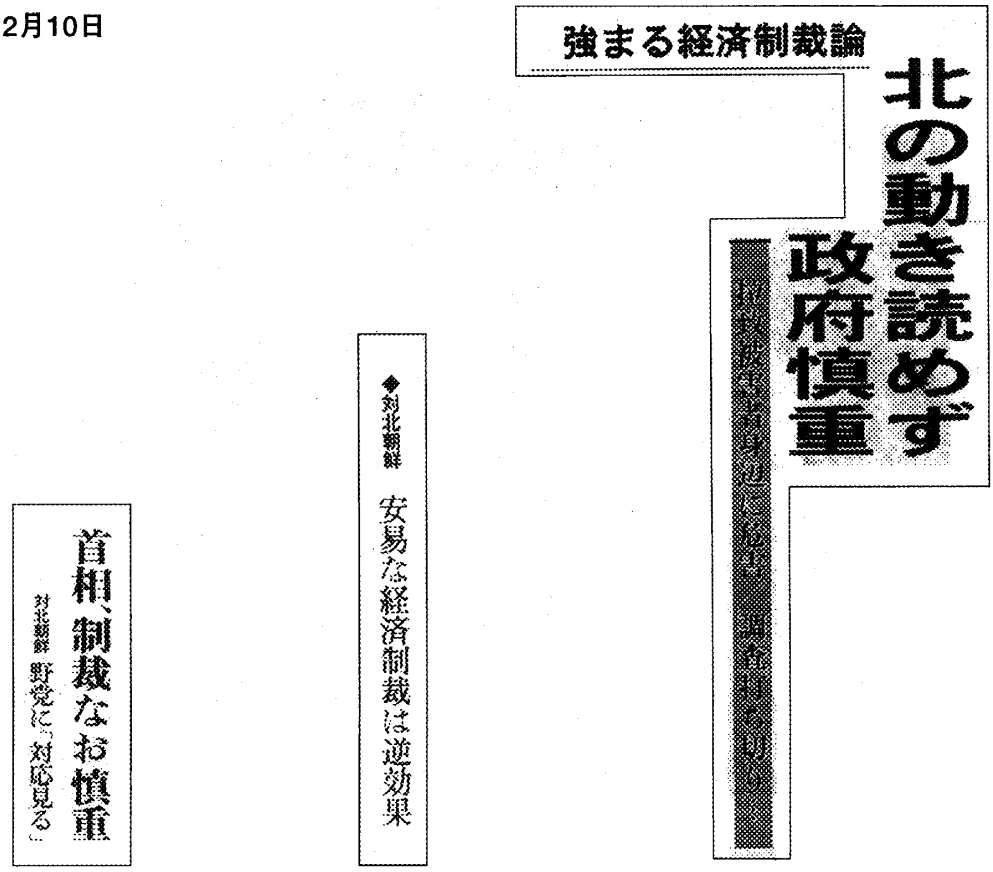
図4.5は、12月９日の見出しの中でマイナスの評価がついたものである。

左側の見出しは、(A)朝日の２面に掲載されたものである。(A)朝日は、“「遺骨」がめぐみさんと別人”であったことを受けて、日本と北朝鮮の関係について《揺らぐ対話路線》という大きな横見出しをつけた。次の《首相、制裁即断避ける》という見出しでは、“首相”は、「制裁」について“即断”することを“避けた”と伝えており、この“即断避ける”というフレーズが「制裁の発動」に対して消極的であるとの印象を受け手に与えたと考えられる。

図中右側に挙げたものは、(Y)読売の2面の見出しである。《経済制裁に首相は慎重》と

いう非常に小さな見出しであり、アンケートでは、“慎重”というワードが「制裁」に否定的な印象を与えていたと思われる。

② 12月10日



(A)朝日12月10日4面　(A)朝日12月10日30面　(S)産経12月10日3面

図4.6 「制裁」にマイナス評価の見出し（2）

表4.6 見出しデータ一覧

	「制裁」面積 (cm²)	見出し面積 (cm²)	平均評価点数 (点)
A12.10-4	2.31	33.99	−0.43
A12.10-30	1.36	33.44	−1.23
S12.10-3	2.10	115.68	−0.33

図4.6は、12月10日の見出しの中で、マイナス評価点がついたものである。

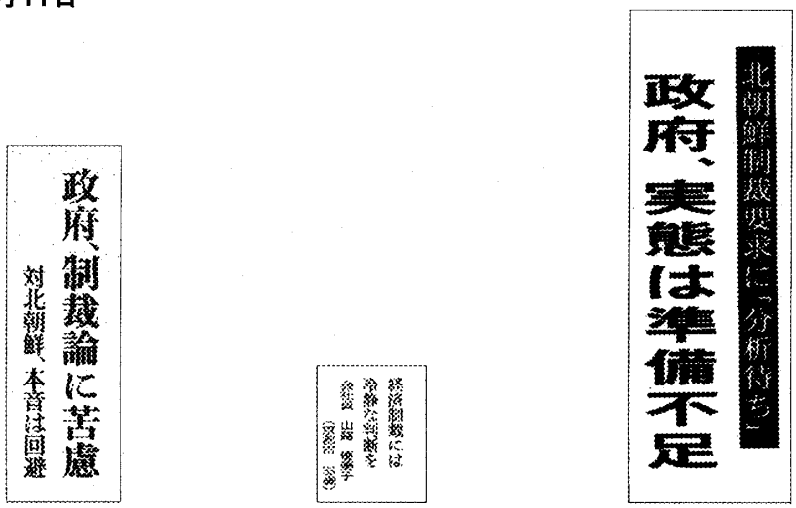
左側は、(A)朝日４面の見出しである。(A)朝日は、前日に引き続き、首相が制裁に“慎重”な姿勢であると伝えた。

中央の《対北朝鮮》《安易な経済制裁は逆効果》という見出しも、(A)朝日（30面）で

報じられたものである。この見出しは、もっともマイナスの評価点数が高かった（－1.23点）。“逆効果”というワードが経済制裁に対する否定的な立場を明確にあらわしている。

図中右側にある見出しは、(S)産経（３面）のものである。一番大きな見出しには、《北の動き読めず政府慎重》と書かれており、その上に少し小さな文字で《強まる経済制裁論》という横見出しがつけられている。この見出しが「制裁」に対して否定的であるとの印象を受け手に与えたのは、「慎重」というワードが大きく用いられていることが影響していると考えられる。

③　12月11日



(A)朝日12月11日4面　(A)朝日12月11日30面　(M)毎日12月11日5面

図4.7　「制裁」にマイナス評価の見出し（3）

表4.7　見出しデータ一覧

	「制裁」面積 (cm²)	見出し面積 (cm²)	平均評価点数 (点)
A12.11-4	2.31	33.99	－0.58
A12.11-30	0.45	12.80	－0.70
M12.11-5	1.35	67.20	－0.18

上図4.7には、12月11日の「制裁」を含む見出しの中でマイナス評価がついたものを列挙した。

左側の見出しは(A)朝日（４面）である。(A)朝日は、《政府、制裁論に苦慮》《対北朝鮮、本音は回避》という見出しで、“制裁論が強まっている”中で、政府が“苦慮”しているという状況を伝えている。さらに、続く見出しには、“本音は回避”とあり、政府としては“「制裁」の発動を回避したい”というのが“本音”であるとも報じている。この

見出しにおいて、マイナス評価に影響を与えたワードは“苦慮”だと推察される。

中央の《経済制裁には冷静な判断を》の見出しは、(A)朝日（30面）の投書である。見出しの大きさは小さいが、負の評価点は非常に高い。“冷静な判断を”という部分が「経済制裁」への否定的な態度をあらわしている。

右側の《北朝鮮制裁要求に「分析待ち」》《政府、実態は準備不足》は、(M)毎日（5面）の見出しである。この見出しは、与野党が政府に“制裁を要求”していることに対し、政府が“「分析待ち」”という理由で決断を先送りしているのは、実際には政府の“準備不足”が原因であると伝えている。この見出しについてのアンケートの印象評価は、「制裁」に対して消極的であるとの評価が高かった。

「見出しの印象効果」に関する考察

マイナスの印象を与える見出しを見てみると、特に“慎重”というワードが「制裁」の評価に強い影響を及ぼすことが分かった。他にも、“苦慮”や“冷静な判断”など、「制裁」の発動に対して「留保」の意をあらわすワードが含まれている場合には、「制裁」に対して否定的という印象を与えたようである。

マイナス評価の見出しの中でもっとも強い影響を与えていたのは、“逆効果”というワードがついた見出しだった。“逆効果”という「制裁」に対して価値判断を示すワードが添えられることによって、非常に強いマイナスの印象が与えられたと考えられる。

また、正負の分極に影響を与えたワードとして、“即時”と“即断”というワードに注目したい。“「即時経済制裁を」”という見出しは、「制裁の発動」に積極的な印象を強めていたのに対し、“即断避ける”という見出しは、「制裁」発動に消極的な印象を与えていた。

このことから、「制裁の発動をすぐに行うべきだ」というニュアンスの見出し場合は、プラス評価が高まり、逆に、それに対して「留保」のニュアンスで伝えた場合には、マイナス評価がついたということがいえそうである[12)]。

V　結論

V－1　分析結果の考察

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道の比較研究では、一貫して見出しにおける「拉致」というキーワードに着目し、その出現頻度（頻度荷重）と文字面積（面積荷重）

12) アンケート調査によって見出しを評価してもらう場合、ある見出しの印象が、同一のページに掲載されている別の見出しの印象によって影響を受ける可能性がある。このことから、見出しの印象効果に関するアンケートでは、調査票における「見出しの配列（レイアウト）」という問題についても考慮する必要がある。

に関する比較・分析を行ってきた。

「拉致」の荷重分析では、「北朝鮮による日本人拉致」というデキゴトに対して、日本の新聞社が「肯定的（P/+)」な評価を下すことはないと仮定し、「拉致」という文字の頻度荷重・面積荷重それぞれの値を合算して比較することによって、各紙の報道の特徴を示してきた。本稿においても、「拉致」に関する各紙の報道には、これまでの分析と同様の傾向がいくつか見出された（たとえば、(S)産経の「アジェンダ・セッティング」、(M)毎日の「後追い」、(Y)読売の「大声」など)。

本稿ではさらに「制裁」という語句にも注目し、新聞の見出しにおける「制裁」の頻度荷重と面積荷重について考察した。日本から北朝鮮に対する「制裁の発動」については、その是非が問われるデキゴトなので、新聞社によってそれを「肯定的」に捉えるか、それとも「否定的」に捉えるかという立場の違いが想定される。そこで、各紙の見出しにおけるニュアンスの違いを分析するため、「遺骨」がニセモノであると判明した直後の3日間(2004.12.9～11）に限定し、「制裁」という語句を含む見出しについて「見出しの印象効果に関するアンケート」を実施した。アンケートでは、各紙の「制裁」ワードを含む見出しすべてを抽出し、その見出しから「北朝鮮に対する（経済）制裁」に対して、「肯定(P/＋)」・「否定（N/－)」どちらの印象を受けるかについて、5段階の評価をしてもらった。

アンケートによって得られた各見出しの「肯定」・「否定」の「評価点数（=質)」と「見出しの大きさ（=量)」という2つのベクトル成分値を、2次元の「荷重グラフ」上にプロッティングした。このグラフから、各紙が「制裁」という同じワードを見出しに用いつつも、それをどのようなニュアンスで伝えていたかについて分析した。12月9日から11日までの3日間という限られた期間ではあるが、横田めぐみさんの「遺骨」がニセモノであると判明した後、各紙の「制裁」報道にどのような重みづけの違いがあったかについて、「見出しの大きさ（＝量)」と正負の「価値判断（＝質)」との関係から考察することができた。このように、本稿で用いた「見出しの大きさ（＝量)」とプラス・マイナスの「価値判断（＝質)」という2つの値を同時に表示する「荷重グラフ」は、見出しにおける「量」と「質」の関係を考察するためのツールとして、一定の有効性をもつと考えられる。

最後に、アンケートの結果をふまえ、いくつかの見出しを取り上げて比較し、同じ見出しグループの中で、どのようなワードが「制裁」の価値判断に影響を与えていたのかについて、若干の考察を加えた。考察の結果、“慎重”“冷静に判断”“苦慮”“逆効果”などのワードは「制裁」に対する消極的な印象を与え、逆に、“即時発動”“必要”などの語句が

ともなった場合には、積極的な印象が強められると考えられる。同じ「制裁」という語を用いた見出しであっても、それに影響を及ぼすようなワードが付随する場合には、見出し全体の印象が左右されることが示された。今回は予備的な調査にとどまるが、今後より本格的な研究が必要である。

V－2　課題と展望

「見出しの印象効果に関するアンケート」を実施した際、「見出しの面積」や「見出しの順序」が変わると、見出しの「評価点数」がどのように変化するのかについても調査を試みた。アンケートでは、本稿の分析に使用した33本の見出しに加え、以下のような「見出しの面積を縮小したもの」（図5.1）や「見出しラインの順序を入れ替えた見出し」（図5.2）についても、同様に評価してもらった。

以下の図5.1は、「大きさを50%に縮小した見出し」である。

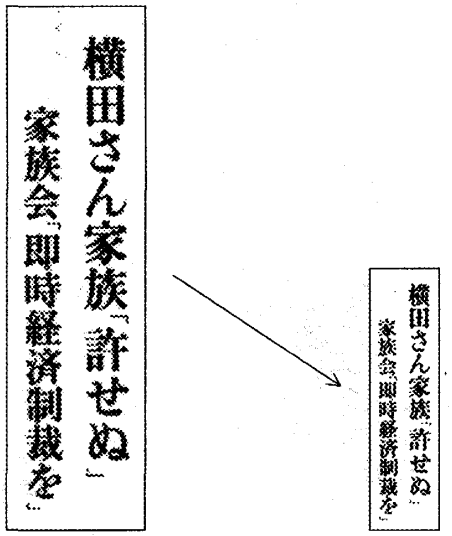


図5.1　面積を縮小した見出し
（左：元の大きさの見出し　右：1/4に縮小した見出し）

表5.1　見出しデータ一覧

	見出し面積（cm^2）	平均評価点数（点）
Y12.9-1	57.33	1.33
Y12.9-1改	14.80	1.25

元の見出しの評価点数は1.33点だったが、大きさを縮小すると1.25点と、元の見出しの

点数よりも低くなっている。同じ見出しであっても、その大きさが変わると、印象が変化すると考えられる。

また、以下の図5.2は、見出しの順序を入れ替えて作成した見出しである。この見出しについても、５段階の評価点数をつけてもらった。

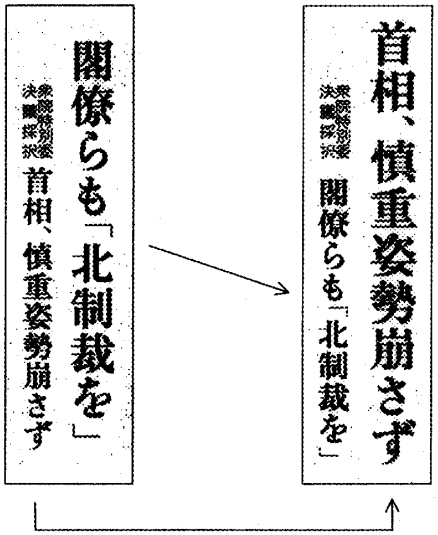


図5.2　順序を入れ替えた見出し
（左：元の見出し　右：順序を入れ替えた見出し）

表5.2　見出しデータ一覧

	見出し面積（cm^2）	平均評価点数（点）
S12.11-3	50.69	0.70
S12.11-3改	50.69	0.18

図5.2右の見出しは、左の《閣僚らも「北制裁を」》と《首相、慎重姿勢崩さず》という「主見出し」と「副見出し」の順序を入れ替え、その文字の大きさを変えたものである。

元の見出し（図中左）の評価点数が0.70点だったのに対し、操作した右の見出しの点数は0.18点になった。見出しの順序を逆にし、《首相、慎重姿勢崩さず》の方が優先されると、「制裁」に対するマイナスの評価が強くなった。

以上のように、①「見出しの面積」が変わった場合に「評価点数」がどのように変化するか、また、②「主見出し」と「副見出し」の順序が入れ替えられた時に、見出しの印象が変更前と比べてどのように変化するのかについては、今後とも研究を重ねる必要がある。

むすび

2002年9月17日、平壌で開催された日朝首脳会談で、金正日総書記が「日本人拉致」の事実を認めて小泉首相に謝罪した。朝鮮民主主義人民共和国の指導者みずからが明らかにした工作員による「日本人拉致」の事実と、「8人死亡、5人生存」の報告は、戦後最大級といっても過言ではない衝撃を日本国民のあいだに惹き起こした。さらに、会談で北朝鮮側から示された「死亡」報告の真否をめぐって、被害者の家族から重大な疑念が提起されるにおよび、国内の世論は沸騰点に達した。今なお「生存の可能性」が見込まれる「被害者の救出」と、「日朝友好の進展」のいずれを優先あるいは重視するかが、日本の政治と世論を二分する大きな政治問題と化したのである。

このとき、修士論文のために新聞報道に注目してきた板村は、世論形成に大きな力を発揮する大新聞が、客観報道を標榜しながらも、実際にはかなりのバイアスをもってこれらの事実を報道しているのではないか、と考えるにいたった。しかもそのバイアスは、記事内容＝「書かれたこと」の「事実性」そのものよりも、事実の「書き方」、つまりキーワードの選択や使用法、大声の強調や小声の隠蔽によることに気づいたのである。

報道されるメッセージの「情報内容」よりも「荷重（重みづけ）形式」に注目することによって、各紙がよって立つ暗黙の立場や視点を探り当て、客観的に記述することができないだろうか、という作業仮説をもとに、手探りでスタートしたのが私たちの共同研究「4大新聞の荷重報道」（1、2、3）である。新聞紙面を2次元の荷重情報空間と捉え、なによりも「見出し」の大きさや配置、記事や写真の割り付け、といった形式的な側面に注目した。とくに板村は、見出しに含まれる「拉致」という衝撃的な言葉を、各紙がどのように使用したか、すなわち、どのぐらいの頻度で、またどのぐらいの大きさの活字で使用したかを定量化し、その量（頻度や面積）の変化を折れ線グラフと棒グラフにすることに成功した。「拉致」は日朝間の歴史的意味連関の文脈を分岐する衝撃的な事実である。これを「大きく報道する」（重視する、私たちの用語法では「荷重する」）ことは、他の出来事（たとえば友好の可能性）を小さく見ることであり、反対に対立する出来事（「友好」は「拉致」と対立する！）を重視することは、「拉致」をできるだけ小さく報道する、あるいは報道しないことにつながりうる。

「拉致」や「制裁」を抑制的に報道した新聞（朝日と毎日）は、日朝の「友好」を阻害しかねない行為をできるだけ小さく報道したい、という暗黙の意図が働いていたのではないか、と推測される。逆に大きく取り上げた新聞（産経と読売）は、「拉致」という出来事の犯罪性を強調することで、日本の国家としてのあり方に大きな問題を提起しようと意

図したのかもしれない。私たちとしては、次回の「荷重報道研究」（その４）が、横田めぐみさんをはじめとする被害者の「無事生還」という文字の大きさを測る作業となることを望んでやまない。

【文　献】

Berger, P., and Luckmann, T., 1966, *The Social Construction of Reality: A Treatise in the Sociology of Knowledge*, Anchor.（＝1975、山口節郎訳『日常世界の構成――アイデンティティと社会の弁証法』新曜社。）

Berelson, B. R., 1952, *Contents Analysis in Communication Research*, New York, Free Press（＝1957、稲葉三千男・金圭煥訳、「内容分析」『社会心理学講座 7 大衆とマスコミュニケーション(3)』みすず書房。）

木村洋二、2004a、「ソシオン・コミュニケーションの多重媒介モデル」『科学研究費補助金研究成果報告書（平成14年度～平成15年度）基盤研究(C)(2)研究課題番号:145102研究課題名:社会的コミュニケーションの多重媒介モデル理論の構築と分析、研究代表者:木村洋二』

――――、2004b、「活字サブリミナル　『新聞見出し』は拉致をいかに報じたか――四大新聞徹底全調査全分析」『諸君！』36(6): 128-138。

――――、2005、「ソシオン理論の骨子（1）」『関西大学社会学部紀要』36(1): 233-256。

熊田亘、1994、『新聞の読み方上達法』ほるぷ出版。

木村洋二・池信敬子、2002、「ソシオンのネットワークと鏡像のコミュニケーション(1)――密告・盗聴のモードをふくむ会話のマトリックス」『関西大学社会学部紀要』34(1): 45-97。

木村洋二・板村英典・池信敬子、2004、「『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道――多元メディアにおける『現実』の相互構築をめぐって」『関西大学社会学部紀要』35(3): 89-121。

――――、2005、「『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道（2）――小泉首相再訪朝に関する報道と荷重分析」『関西大学社会学部紀要』36(1): 119-154。

木村洋二・増田のぞみ、2001、「マンガにおける荷重表現――ページの『めくり効果』とマンガの『文法』をめぐって」『関西大学社会学部紀要』32(2): 205-251。

木村洋二・林文川・板村英典、2003、「『李登輝来日』をめぐる4大新聞の荷重報道の比較研究」『関西大学社会学部紀要』35(1): 157-210。

木村洋二・渡邊太、2005、「ソシオン・コミュニケーションの多重媒介モデル」『関西大学社会学部紀要』36(1): 75-117。

Krippendorff, K., 1980, *Content Analysis: An Introduction to Its Methodology*, BeverlyHills: Sage Publications.（＝1989、三上俊治・椎野信雄・橋元良明訳『メッセージ分析の技法――「内容分析」への招待』勁草書房。）

池信敬子、2004、「紙面にあらわれた「重みづけ」要素の比較分析―日本人拉致事件に関する新聞報道をめぐって」『科学研究費補助金研究成果報告書』

板村英典、2004a、「北朝鮮による日本人「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道の比較研究―見出しにあらわれた「拉致」の出現頻度と面積を中心に」『科学研究費補助金研究成果報告書』

――――、2004b、「『瀋陽事件』をめぐる荷重報道の比較研究――4大新聞における見出し語を中心に」『人間科学』61: 13-49。

増田のぞみ、2004、「『内容分析』手法におけるメッセージの『重みづけ』—『報道荷重分析』との比較から」『科学研究費補助金研究成果報告書』
三樹精吉、1966、『新聞の編集と整理』現代ジャーナリズム出版会。
中道實、1997、『社会調査方法論』恒星社厚生閣。
新聞整理研究会、1966、『新聞整理の研究』日本新聞協会。
————、1994、『新編 新聞整理の研究』日本新聞協会。
内田治・醍醐朝美、1992、『成功する　アンケート調査入門』日本経済新聞社。
————、2001、『実践　アンケート入門』日本経済新聞社。
Van Dijk, Teun A., 1988, "How 'They' Hit the Headlines: Ethnic Minorities in the Press", Geneva Smitherman and Teun A., van Dijk eds., *Discourse and Discrimination*, Wayne State University Press, Detroit.
渡邊太、2004a、「マス・コミュニケーションの反対効果—メディア不信のネットワーク動作と情報の濾過」『科学研究費補助金研究成果報告書』
渡邊太、2004b、「現実感と荷重—意味の生成とメディアについての考察」『科学研究費補助金研究成果報告書』
安田三郎・原純輔、1983、『社会調査ハンドブック　〔第3版〕』有斐閣。

資料1　「日朝実務者協議」関連見出し一覧

注）・eは夕刊を示す
・「面積」欄における「拉致」「制裁」の単位はcm^2
・見出し欄のゴシック体は「拉致」もしくは「制裁」を含む見出しを示す

	(A)朝日新聞				(S)産経新聞				(M)毎日新聞				(Y)読売新聞			
日付	ページ	見出し	面積「拉致」	面積「制裁」	ページ	見出し	面積「拉致」	面積「制裁」	ページ	見出し	面積「拉致」	面積「制裁」	ページ	見出し	面積「拉致」	面積「制裁」
11.9	3	（社説）日朝協議 北朝鮮は厳しさを知れ			2	（社説）日朝協議 **制裁念頭に成果引き出せ**		1.05	2	藪中局長ら出発 きょうから日朝協議			5	日朝実務協議		
	4	ベーカー大使会見要旨 北朝鮮			3	ベーカー大使　発言要旨 北朝鮮核開発				同行取材認めず				日本代表団北京入り		
		北朝鮮への食糧支援 「必要な人に届いている」 竹内次官			5	日朝協議 日本代表団が出発 北，報道陣の同行認めず 北の人道支援をモニタリング 職員4人派遣			5	（社説）日朝実務者協議 **拉致解決に新たな進展を**	1.28			北朝鮮支援の監視団派遣へ		
	7	自民中間報告に反発する論評 朝鮮中央通信							23	曽我さんがジェンキンス氏と面会			36	安否不明10人の早期帰国を訴え **拉致被害者家族集会**	0.18	
	29	日朝の実務者協議きょうから平壌で			7	非武装地帯の鉄柵切断 北スパイが緊急帰還か 韓国側見解 領海侵犯連動の可能性 北朝鮮外務次官が訪中							e-1	午後から日朝協議		
	e-10	日朝実務者協議代表団，平壌へ			25	**横田さん夫妻が拉致問題で講演** 23日，上本町で	0.32						e-12	中国 脱北者62人強制送還		
					27	日朝協議前に家族会緊急集会										
					e-1	日朝協議　午後スタート めぐみさんら10人安否は？ "青水の陣" 再遣の影響は **制裁も辞せず**		0.32								
11.10	1	日朝協議 調査委責任者出席へ 北朝鮮 不明10人の情報　焦点			2	日朝きょうから実質協議 調査委の責任者「北」出席を表明			2	**拉致問題3回目日朝協議始まる** 脱北者62人を強制送還 中国	0.32		2	日朝協議 「北」調査責任者出席へ 安否不明10人の情報焦点		
	2	**拉致問題** 「国際調査団派遣も」 人権高等弁務官 北朝鮮側に要請	1.44		5	脱北62人を本国へ送還			5	川口順子・首相補佐官　一問一答 日朝　こう着続かず			7	北朝鮮外務次官が訪中		
					25	よど号メンバー妻を起訴			7	北朝鮮米大統領再選に初言及			34	日朝協議 「めぐみさんの事　キム氏は話して」 横田さん夫妻 聞き取り調査実施訴え		
	6	北朝鮮にコンビニ3号店 お支払いは米ドル限定							e-7	日朝実務者協議2日目が始まる						
	7	中国政府脱北者62人を送還											e-1	日朝協議2日目始まる		
	25	**拉致問題と平和・人権考える** 「家族会」の横田夫妻語る 23日に上本町	0.55													
	e-8	**拉致問題で実質協議へ** 日朝実務者	0.55													
11.11	2	日朝協議 安否調査委責任者が説明			2	日朝協議 10人の安否を聴取 「北」調査責任者が同席			3	不明10人調査責任者が説明 日朝協議2日目			1	**拉致調査** 「北」責任者，初の出席 日朝実務協議で結果報告	0.78	
	4	国連調査継続日本が求める **北朝鮮拉致問題**	0.2		4	**安倍氏「経済制裁具体化を」**		0.18	e-7	6カ国協議への早期復帰を要求 北朝鮮に藪中局長			e-13	日朝協議 6か国協議再開促す 北責任者の聴取継続		
	7	「身だしなみ整えよ」北朝鮮紙呼びかけ			6	米研究所　専門家明かす 「北朝鮮核兵器開発」米の対応 **外交から制裁へシフト**		3.51								
	e-11	KEDO 軽水炉凍結延長へ KEDOの軽水炉建設														
	e-10	年内の6者協議開催働きかけか 日朝実務者協議														
11.12	2	**拉致，現地調査へ** 北朝鮮 「6者」早期開催拒否 実務者協議	2.31		7	6カ国協議 「早期開催はない」 日朝協議 北外務次官が明言 主体思想，ネットで講義			2	6カ国協議 早期復帰に難色 実務者協議で北朝鮮			1	関係者聴取や実地見分実施へ **日朝，拉致協議で**	0.24	
									5	「全部盗聴されている」 日朝協議で訪朝団　途中報告を控える			27	横田さん夫妻，23日に講演 天王寺区		
									e-11	KEDO事務局長が訪朝へ			e-13	**拉致被害関係者の聞き取り調査予定** 日朝協議	0.72	
11.13	1	「めぐみさんの夫」と面会 日本側代表団 日朝協議　2日延長			2	めぐみさん「夫？」と面会 日本側代表団 滞在15日まで延長 日朝協議			2	政府代表団 めぐみさんの「夫」面会 日朝協議 日程延長，さらに聴取			1	「めぐみさんの夫」と面会 日朝協議日程延長		
					6	北軽水炉問題で事務局長訪朝へ KEDO			7	金前大統領側近の有罪を最高裁破棄 北朝鮮送金事件			4	日朝協議 日程延長　情報収集図る		
													34	日朝協議 「北の時間稼ぎでは」 3日延長に有本さん家族ら		
													e-10	「招待所」訪問へ 日朝協議5日目		
11.14	1	不明者の物証　複数提示 日朝協議 「そのまま保存」日本へ			3	日朝実務者協議 **拉致「招待所」関係者を聴取**	1.36		2	代表団あす帰国家族会に報告へ 日朝協議			1	「招待所」関係者と面会 日朝協議日本側 有本さんらの消息調査		
					4	脱北34人日米など一時移住 北，再び政策転換要求			3	「経済封鎖よくない」 盧韓国大統領　対北朝鮮政策			2	「対北朝鮮封鎖望ましくない」		

					26	講演会「拉致問題とアジアの平和・人権を考える集い」	0.24							韓国大統領			
														7	KEDO事務局長，訪朝		
11.15	2	日朝協議 代表団きょう帰国 安否不明者の物証ともに			1	不明者資料，日本へ 日朝協議終了 代表団きょう帰国			1	代表団，不明者資料携え帰国へ 日朝実務者協議				1	不明者の新資料携えきょう帰国 日朝協議代表団		
	5	主体思想講義北朝鮮がHP 「宣伝工作か」 韓国警戒			2	政府，北制裁を検討 町村外相		1.9	2	北への経済制裁「大変効果ある」 安倍幹事長代理		0.32		2	「対北制裁手順政府内で検討」 外相		0.32
	34	ペア碁，北朝鮮がV			5	6カ国協議の作業部会 来，来月開催目指す			26	北朝鮮ペアが優勝				9	政治 ・日朝実務協議で再調査報告		
	e-1	家族会に午後説明 日朝協議の代表団帰国			29	北朝鮮ペア優勝 国際アマ囲碁選手権			e-1	生存情報待られず 日朝協議不明10人 午後，家族会に説明 訪朝団帰国				e-1	"拉致"新資料　分析へ 日朝協議代表団帰国 「一行以外　同行せず」	4.06	
					e-1	日朝協議 被害者家族に報告へ 代表団帰国 資料はコンテナ7個分			e-6	なぜ中国と北朝鮮で「共産主義」は続くのか？ 革命神学がなじんだ家族の形態　他国に比べ変動少なく							
11.16	1	「めぐみさんの遺骨」提供 北朝鮮側 政府，DNA鑑定へ 8人死亡診断書，捏造			1	「めぐみさん遺骨」持ち帰る 日朝協議代表団 北，カルテも提供 10人の生存情報なし			1	「横田さん遺骨」提示 北朝鮮　5人の資料も 死亡診断書に誤り 代表団持ち帰る				1	「めぐみさん遺骨」提示 日朝協議 北，拉致の新物証 被害6人分	8.61	
		「証拠ない」「謎だらけ」 家族会				「だまされない で」 拉致被害者家族ら会見	0.32			「8人死亡」変えず					「8人死亡」変えず 首相「納得できぬ」		
	2	追求50時間　結論同じ 日朝実務者協議				納得できぬ精査が必要 小泉首相			3	「物証」　疑問点多く 日朝協議 つじつま合わせ？ 北朝鮮					家族会は反発		
		「夫」，毛髪提供は拒否 ・めぐみさん			2	（社説）日朝協議 徹底した真相究明を望む 日本の世論分断狙う				説明訂正相次ぐ 精査し再協議要求へ 政府				2	対「北」圧力論強まる 政府与党 当面は分析作業優先		
		死亡記録「慌てて作った」 ・調査委員会				早期正常化交渉の「口実」に 政府，経済制裁先送り		1.28		まだ納得できぬ 小泉首相					国交正常化交渉再開狙う		
		「6者」再開拒否枠組みは維持 ・核問題			3	日朝協議代表団帰国 北の「物証」徹底解明 つじつま合わせ修正も				02年の説明誤り初めて認める				3	大量資料　低い信頼性 日朝協議代表団帰国 めぐみさん「遺骨」鑑定不能も／「夫」は血液提供拒否 つじつま合わせ疑念		
		政府，経済制裁見送り 北朝鮮側の「努力」評価		2.76		遺骨をDNA鑑定へ			5	（社説）日本人拉致事件 これで「幕引き」は許されない	0.48				北朝鮮，柔軟姿勢を演出 （社説）日朝実務協議		
		「よど号」メンバー 身柄引き渡し北朝鮮応ぜず				拉致被害者家族への説明 ・横田めぐみさん	1.8			日朝協議　与党内に失望感 食糧12.5万トン支援焦点に					やはり考えるべき「北」への制裁 DNA鑑定		0.72
	3	（社説）日朝協議 「遺骨」のやり切れなさ				・田口八重子さん				「制裁実施」強まる圧力		0.5		5	日朝協議 制裁へ強硬論も		6.9
	4	与野党，世論見極めへ 拉致問題　北朝鮮側の説明	1.12			・市川修一さん ・増元るみ子さん			7	韓国総領事館に脱北男性駆け込み ウラジオストク					与野党 不満・いらだち		
		「まず事実確認を」 北朝鮮，「対米」も意識か				・石岡亨さん ・有本恵子さん			23	北朝鮮側の不明者調査結果 家族会に15日政府が提示					よど号メンバー引き渡し応じず 情報小出し，対北感情悪化		
	7	北朝鮮の男性ロシアで亡命求める				・松木薫さん				・横田めぐみさん					藪中局長の会見要旨		
	13	日朝協議　安否不明者に関する情報や調査内容 横田めぐみさん			6	韓国大統領 核問題「北にも一理」				・田口八重子さん ・市川修一さん				9	外務省が拉致被害者家族会に提出した説明資料 ・横田めぐみさん	2	
		田口八重子さん 石岡亨さん				再三擁護発言 国内から批判噴出				・増元るみ子さん ・石岡亨さん					・田口八重子さん ・市川修一さん		
		市川秀一さん 増元るみ子さん				金日成大学　韓国を侵食 ネットでお茶の間に				・有本恵子さん ・松木薫さん					・増元るみ子さん ・石岡亨さん		
		有本恵子さん 松木薫さん			7	ウラジオでも駆け込み			25	日朝協議　生存証拠なし 「違う」と娘は叫んでる					・有本恵子さん ・松木薫さん		
		外務省報告書の要旨			28	確認不可能　ナゾの夫 「写真断りたい」				「拉致」家族会 怒りと失望	0.72			34	北回答　矛盾浮き彫り 夫かどうかも疑問		
	30	なお残る矛盾・疑問点 死因　前回と違う説明も				血液鑑定も 特殊機関所属か				・横田さん ・田口さん					専門家		
	31	家族会が会見 27年　怒りの"物証" つぼ入りの「遺骨」　生徒証　自筆メモ…				徹底的に検証を／とんでもない茶番 ・ジャーナリスト，櫻井よしこさんの話				・有本さん 「説明180度変わった」				35	「遺骨」信じない めぐみさん27年前拉致の日	5.46	
		横田さん 知らぬ姿写真に涙				・北朝鮮の事情に詳しい関西大学助教授，李英和氏の話				・増元，松木さん					両親 若い写真に涙ぐむ		
		有本さん 「取り戻すまでは」			29	拉致の日　新たな苦しみ 「めぐみさん遺骨」	10.92			小住さんら3人入国確認できず 北朝鮮が回答					有本さん 経済制裁しかない		4.06
		「北朝鮮ベース」 地村保さん批判				「子供たちは，どこかで待っている」 27年の歳月				「コメント控えたい」 地村保さん					「ウソだ」怒りと失望 家族へ説明3時間半に		
		「拉致被害者と温度差感じる」 特定失踪者の家族	0.32			早紀江さん，声震わせ 不信，怒り，落胆				横田さんの遺品　非常に不自然 重村智計・早大教授（国際関係論）の話					DNA鑑定の可否明言せず 警察庁幹部		
	e-10	DNA鑑定に「1週間～10日」 「めぐみさん遺骨」				家族会「前回と同じ」 特定失踪者								e-1	「めぐみさん遺骨」鑑定 1週間か10日 官房長官		
	e-12	北朝鮮訪問で親族に会えず 賠償求め絶連を提訴			e-1	拉致問題 首相「再調査が必要」 遺骨鑑定に1週間－10日	0.5							e-12	閣僚ら「北」対応憤る 日朝協議		
		「会社員」　転			e-15	田中実さん											

		横田さん夫				**北，仕事名目に拉致？**	2.76								**経済制裁検討の声も**		2.1
						失踪直前知人に											
						「インド方面へ行く」											
						拉致被害者政府未認定	0.32										
						関係者ら苛立ち											
11.17	1	3枚の「めぐみさん」			1	望郷のまなざし			1	横田さん			1	帰国前夜「遺骨」届く			
	6	中東・北朝鮮…道半ば				めぐみさん新たな写真				長い空白　母の涙				検証日朝協議			
		パウエル外交			3	**対北経済制裁求め声明**		3.36		北朝鮮提供				「何かをこらえているよう」			
		問題積み残し				**拉致議連家族会など**	0.65			3枚の写真公表				めぐみさん写真公表			
	7	金総書記の肖像画消える？				「嘘の上塗り」			2	金総書記			3	日本政府			
		タス通信報道				**北朝鮮への経済制裁**		0.24		肖像画，撤去始まる				「日米関係変わらない」			
	26	日朝協議				自民「発動」大勢に				北朝鮮の公共施設				イラク，北朝鮮の調整難航も			
		北朝鮮の「誠意」見極めを				首相，3役依然慎重				タス通信が報じる			5	検証　日朝協議			
	27	プッシュ氏再選で北朝鮮は…			6	北朝鮮				**北朝鮮への制裁実施要請で一致**		0.32		「家族」演出しつつ撮影拒んだ「夫」			
	30	めぐみ，こんな所にいたの…				金総書記の肖像画撤去				**自民拉致対策本部**	0.18			・工作員			
		横田さん夫妻写真3枚公開				タス通信報道				**拉致議連も迫る**	0.32			・「新婚旅行」			
		家族　新たな悲しみ				全土に秘密通達？				米国務長官　後任にライス氏				・矛盾追及			
	e-8	金総書記の視察を報道				脱北者教育に親北新聞使用				「強硬」傾斜も「協調」不可避			7	肖像撤去			
		朝鮮中央放送				韓国・盧政権国会で批判集中				・北朝鮮問題				北の施設から　「秘密指令」で			
	e-10	横田めぐみさんの「遺骨」				北朝鮮に特使派遣を検討			29	**拉致直後　不安な嘘**		11.7		タス通信報道			
		代表団帰国前日に提出				軽水炉問題は月末に結論				13歳の面影「懐かしく悲しい」			15	**進まない拉致調査**	4.5		
					23	第3回日朝実務者協議				めぐみちゃん　こんなとこにいたの				トップ判断優先の北朝鮮側に国際常識を気づかせる必要			
													39	めぐみさん資料公開			
						私はこう思う				公開写真				不安げな娘　あの時のまま			
						（投書）首相再々訪朝が重圧与える				父母，何度もルーペで				両親　写真なで涙			
						（投書）実力試されている日本外交				**遺骨DNA鑑定1週間から10日**				「めぐみさん　病院違う」			
						（投書）失望や分断狙う卑劣な手法			e-7	金総書記　軍視察				蓮池薫さん証言			
						（投書）被害者帰国の一点に尽きる				2週間ぶり報道				**経済制裁求め声明**			0.32
						（投書）北の対応，少しは進展あった								「救う会」など3団体			
						（投書）成果急ぎ足元見られている								恵子の安否　証拠にならない			
						（投書）経済制裁でなく交渉継続を		0.32						手書き図面			
						（投書）報復恐れては進展あり得ぬ								有本さん両親憤慨			
						（投書）北への圧力，一国では限界											
						（投書）矛盾点細かく追求すべきだ											
						（投書）首相は拉致に絞って本腰を	0.32										
						（投書）資料の提示はその場しのぎ											
					28	**拉致資料**	2.4										
						北，3つの思惑　深まる矛盾											
						家族会危機感											
						「終息に向かうのでは」											
						・①結果ありきの“証拠”											
						・②証言に柔軟対応											
						・③シンボル狙い撃ち											
						横田さん　不快感あらわ											
						「めぐみちゃん　かわいそうでならない」											
					e-13	金総書記の軍視察報道											
					e-14	北の「横田めぐみさん」カルテ											
						「信憑性ある」											
						参院特別委											
						藪中局長が説明											
11.18	1	めぐみさん「自筆」メモ			3	北の「主体思想」批判			3	対北朝鮮			1	小泉外交（1）			
		本は1日読んでもいいほど好き				反政府グループ				首相「食糧支援を継続」				対北要求　3点セット			
		家族や趣味つづる				平壌などでビラ				党首討論			2	横田さんのカルテ			
	2	めぐみさん病院カルテ				「対北圧力は必要」				民主・岡田氏は凍結要求				「信ぴょう性ある心証」			
		「信憑性あるのでは」				中山前官房参与				横田さんカルテ信ぴょう性高い				藪中局長			
		藪中局長				提示資料を非難				外務省局長				**「対北朝鮮，経済制裁の段階」**			1.28
		歯の治療痕など　一致				遺骨鑑定に1カ月程度				「今も相当数生存と確信」				読売国際会議フォーラム			
		「真実はどこに」中山前参与批判				政府関係者				**拉致問題で中山氏**				安倍氏が語る			
		不明者の再調査結果			4	北食糧支援首相「行う」				個人崇拝印象解消のため	0.18		4	小泉外交（1）			
		めぐみさん写真合成との指摘も			6	金総書記動静報道				北朝鮮の肖像撤去でタス通信				大統領が抑えた「訪朝反対」			
		「救う会」明らかに				敬意表す言葉削除				メディアからは尊称も				「ジュンイチロウが決めたことだから」			
	4	対北朝鮮				北朝鮮			5	**「北朝鮮に対して経済制裁の段階」**				6か国協議拒否の理由「米の人権法成立」			
		食糧支援，続行の考え				個人崇拝払拭狙いか				安倍幹事長代理				**「北朝鮮に誠意なければ経済制裁を」**			0.18
		党首討論で首相が表明			19	（投書）北朝鮮の露骨な姿勢に憤り			27	横田めぐみさんの「遺骨」			6	“個人崇拝色”薄める狙い？			
		拉致問題切り離す	1.36	0.32		（投書）交渉で無駄な時間費やすな				鑑定の力ギ握る火葬温度				金総書記肖像撤去			
		経済制裁発動公明が前向き			e-14	めぐみさんの「夫」の身元を精査中				DNA壊れた？				「最高指導部の命令」			
		神崎代表								歯髄残存に期待				タス通信報道			
		6者協議巡り米の意向伝達								「松木さんの骨」も“提供”				「美称」消して報道			
		日朝協議で日本側							29	合成の疑い				朝鮮中央放送など			
	7	総書記崇拝を指導部が制限？								めぐみさん写真で救う会			7	米大統領			
		「肖像撤去」関連報道								プロ写真家が指摘				対北包囲網目指す			
	e-12	北朝鮮に核放棄要求へ							e-9	北朝鮮の核　主要問題				APEC			
		APECで米高官示唆								米と日中韓露　各首脳会談				日韓中露首脳と会談へ			
		6者協議再開も要請								APEC期間中			33	めぐみさん写真合成の疑い濃厚			

															教う会指摘		
															松木さん　墓近くで遺骨		
															政府代表団持ち帰る		
															「鑑定困難，可能性低い」		
12.9	1	遺骨　めぐみさんと別人			1	めぐみさん「遺骨」は別人			1	めぐみさん「遺骨」は別人			1	めぐみさん「遺骨」は別人		
		DNA鑑定で判明				北朝鮮また偽り				2人分のDNA検出				DNA鑑定で判明		
		政府				2人分のDNA				北朝鮮に政府抗議				「調査虚偽」北に抗議		
		北朝鮮に厳重抗議				政府抗議				食糧支援を凍結				政府		
		食糧支援を当面凍結				食糧支援を凍結				「夫」のDNA鑑定は不可能				追加の食糧支援凍結		
		政府				「必ず生存している」				あす拉致特別委	0.32			「2人分の骨」確認		
		経済制裁は慎重に判断		1.53		横田さん夫妻ら会見				絶対違うと思っていた				横田さん家族「許せぬ」		
		「生存信じて運動続ける」				経済制裁論が噴出		3.51	2	遠のく日朝正常化				家族会「即時経済制裁を」		2.31
		横田さん夫妻				首相「交渉は続ける」				政権内部混乱を反映			2	北の主張崩した鑑定		
	2	揺らぐ対話路線				DNA鑑定				国際政治の大問題だ				困難な状態		
		「遺骨」めぐみさんと別人			2	（社説）別人の遺骨			3	（社説）ニセの遺骨				最新技術を駆使		
		首相，制裁即断避ける		3.78		もはや対話の選択はない				何という卑劣な仕打ちだ				経済制裁に首相は慎重		0.32
		真意分からず政府困惑				対北制裁　官邸なお慎重		12.71	7	北朝鮮			3	強まる経済制裁論		11.28
		6者協議へ悪影響懸念				際立つ“弱腰ぶり”				総書記の直接統治強化				「遺骨」めぐみさんと別人		
	3	（社説）遺骨の嘘				6カ国協議など影響懸念				韓国紙報道				対話の限界　浮き彫り		
		総書記はこの怒りを聞け				次回の実務者協議				9月から機構改革				「六カ国協議」に影響も		
	4	「遺骨は別人」				「最後通告を」			27	娘の尊厳　もてあそぶな				政府，発動可否　見極めへ		
		与野党から批判噴出				首相発言の要旨				めぐみさんの遺骨は別人　家族が怒りの会見				合成写真，日付偽造…		
		経済制裁		0.78	3	偽りの証拠　怒り再び				「代償の大きさを知るべきだ」				北の説明，矛盾だらけ		
		世論見据え論争へ				「めぐみさん遺骨」は別人				調査の信ぴょう性　崩れる				日朝実務協議		
		民主は対応の甘さ非難				「夫」も偽物の疑い				有本さん母				（社説）“遺骨”は別人		
		首相発言				被害者家族，不信が拡大				「娘の資料も信じられぬ」				「北」の愚行が自ら制裁を招く		0.91
		（要旨）				・疑問点の連続			e-1	「田口さんは李恩恵」示唆			5	日朝協議打ち切り論も		
	7	北朝鮮外交官2人強制容疑，トルコ拘束				・苦しまぎれ？				地村富貴恵さん証言				「遺骨」めぐみさんと別人		
	38	真実，まだ闇の中				・食い違う証言				本人から「工作員指導」				与野党一斉に反発		
		「証拠」撤回　次々と				田口さん			e-9	拉致問題解決へ支持継続を表明	0.32			細田官房長官会見の要旨		
		DNA鑑定				「死亡」以降も目撃				米国務省				・鑑定結果		
		母・娘と照合し断定				最先端の鑑定　北，甘く見た？			e-10	北朝鮮工作船展示館を公開				・経済制裁		0.18
		松木さんの遺骨も別人			5	「遺骨」別人								・日朝関係		
		死亡時期以降に「田口さん見た」				「北」の大使館面会を拒否							7	「6か国」で韓国と協議		
		常貴恵さんの知人				参院拉致特別委		0.32						米特使		
		即時経済制裁を		0.36		13日に理事懇							39	めぐみの尊厳もてあそんだ		
		家族会・教う会			7	朝鮮労働党改編金総書記が主導								遺骨は別人		
		「経済制裁」言うべきだ		0.55		党員40%異動，処罰強化								家族　安堵と怒り		
		重村智計・早大教授（国際政治）の話				韓国紙報道								鑑定待ち		
		冷静な議論が必要だ			14	横田めぐみさんの「遺骨」は別人								「つらかった」		
		小此木政夫・慶大教授（韓国朝鮮政治論）				私はこう思う								日本はバカにされている		
		の話														
	39	「捏造，全身に怒り」				（投書）在日に怒り向けてはならぬ								有本さん母ら		
		「別人」鑑定で横田夫妻				（投書）どうにか日本主導の交渉に								「北の対応理不尽」		
		不信と安堵交錯				（投書）予想通りのDNA鑑定結果								拉致被害者5人	0.24	
		弟「絶対許さない」				（投書）政府は行動伴う意思表示を								「コリア・レポート」の辺真一編集長の話		
		「めぐみさんの夫」は本物？				（投書）こんなことなら即時制裁を		0.32	e-1	松木さん「遺骨」も別人						
		写真や毛髪提供拒否→細胞片を分析				（投書）国う両親にせつなさ感じる				拉致被害者					0.48	
		有本さんは				（投書）日朝協議の進め方　見直しを				「遺骨」別人問題6か国協議は別						
		「首相は説明を」				（投書）今こそ北朝鮮にムチ使う時				官房長官						
		地村さん父				（投書）送金中止など強権の発動を			e-13	あす拉致特別委					0.32	
		「制裁発動して」		0.78	30	再調査　苦しみ愚弄				めぐみさん「夫」具体的証拠ない						
	e-10	横田さん「夫」確認作業難航				「いいかげんにしろ」				官房長官						
		官房長官語る				被害者家族			e-14	めぐみさんの「夫」のDNA鑑定進める						
	e-12	13日に正式な「遺骨」鑑定書				日本が侮辱された				皮脂，面会時採取						
		横田夫妻明かす				家族会　教う会「抗議声明」										
						本紙が号外										
					31	北のウソ　何度目だ										
						めぐみさん「遺骨」別人										
						「怒りもって抗議」										
						滋さん，声震わせ会見										
						早紀江さん										
						「やっぱり」										
						ニセモノ，北朝鮮らしい／「平壌宣言」即刻										
						破棄を										
						・山梨学院大学の宮塚利雄教授（朝鮮近代経										
						済史）の話										
						・関西大学の李英和助教授（北朝鮮経済論）										
						の話										
					e-1	松木さん「遺骨」今回も別人										
						拉致被害者帰国米が協力表明		0.32								
						衆院特別委が経済制裁審議へ										
								0.45								
					e-14	「遺骨」別人										

						解決へ制裁必要 横田夫妻会見 「心底ホッとした」		5.51									
12.10	2	対北朝鮮 制裁要請　決議へ 衆院拉致特別委	0.18	2.31	1	サッカーW杯アジア最終予選 日本，初戦は北朝鮮 戦力ナゾ，渡航ビザ，警備…ピッチ内外に不安 同じB組に強豪イラン，バーレーン			5	拉致議連 経済制裁求める決議 平沼会長	0.32	1.28	1	日本，初戦は北朝鮮 サッカーW杯最終予選		0.78	
		政府向け　きょう採択 「制裁を視野に」連合が見解示す		0.32	2	（社説）不誠実な北 怒り伝わらない首相発言				「徹底的に圧力を」 非難決議をきょう採択 衆院特別委			5	対「北」制裁　要求決議 拉致議連 小泉外交16 「一家再会」参院選前に固執	0.18		
	4	首相，制裁なお慎重 対北朝鮮 野党に「対応見る」		2.31	3	強まる経済制裁論 北の動き読めず政府慎重		2.1	30	帰国者証言から政府に疑問点 家族会と救う会			6	北朝鮮の世相反映？ 刑法改正 電力浪費罪や酒密造罪			
	29	拉致問題と人権テーマにシンポ あす「エル・おおさか」	0.36			拉致被害者身辺に危害／調査打ち切り… ・全面か段階か ・“暴発”を警戒	1.08		e-3	W杯予選 人工芝，電力不足… 北朝鮮戦の困惑			16	（投書）拉致問題解決に強硬手段が必要	0.32		
	30	対北朝鮮 安易な経済制裁は逆効果		1.36		制裁求める決議拉致議連が採択	0.32	0.32		日本，「拉致」抱え対応手探り	0.55		17	遺骨は別人 ウソを重ねた国家犯罪を隠す北朝鮮上意下達の独裁に揺らぎも			
	33	「田口さんは李恩恵，裏付け」 証言もとに疑問提示 家族会など				官房長官に申し入れ 横田早紀江さん娘の無事祈る 韓国も詳細報道				北朝鮮協会・チョン・インチョル副会長			21	日本「厳しい組み」 イラン　バーレーン 中東の強豪 北朝鮮 少ない情報 W杯最終予選 北朝鮮			
		増元さんに子？			23	横田めぐみさん「遺骨」別人 （投書）「北」に断固たる意志を示せ （投書）もはや圧力で対処するとき			e-14	一家で曽我さん墓前に帰郷報告							
	e-10	横田さん遺骨で「回答に期限を」 自民拉致対策本部	0.2			（投書）虚偽説明には制裁以外なし		0.32					37	田口八重子さん 「女性工作員の日本語教師」 地村富貴恵さん証言			
	e-12	曽我さん一家墓参			28	「増元さんに子供」 蓮池祐木子さんが証言 家族会救う会 北の説明　矛盾点を公表 拉致問題の見解？制強が無回答 府内選出議員ら	0.32						e-1	テロ防衛など多機能化 新大綱閣議決定 中国・北朝鮮を注視 国際協力，本来任務に			
					e-1	曽我さんの娘が住民登録 「北経済制裁　発動を」 自民党対策本部決議 遺骨鑑定に期限つき回答要求		11.78						4人そろい墓前に報告			
					e-3	対北朝鮮戦は人工芝ピッチ？ W杯最終予選											
					e-15	北外交官が麻薬密輸 トルコ政府，国外退去処分 AP通信など報道											
					e-16	先祖の墓前　新たな出発誓う 曽我さんの娘　住民登録 佐渡											
12.11	3	北朝鮮軽水炉事業 廃止後もKEDO存続 事務局長意向 「実績生かして」			1	めぐみさん 「北」工作員？に日本語指導 地村富貴恵さん証言			1	北朝鮮経済制裁積極検討求める 衆院拉致特委決議	0.18	0.32	2	「拉致被害者全員帰した」 北朝鮮 「遺骨」以降初めて言及	1.36		
	4	W杯予選　北朝鮮と対戦 政治の余波首相が心配 「台無しにしてほしくない」			3	閣僚らも「北制裁を」 衆院特別委決議採択 首相，慎重姿勢崩さず 韓国大統領，訪欧で北宥和発言連発 米との摩擦も		3	2	「拉致被害者と家族全員日本に返した」 朝鮮中央通信	0.18			「北」制裁求める 衆院特別委決議		0.32	
		政府，制裁論に苦慮 対北朝鮮，本音は回避		2.31					5	北朝鮮制裁要求に「分析待ち」 政府，実態は準備不足 「サッカーと政治は別」 W杯予選で北朝鮮と同組 首相「互いに協力を」		1.35	30	「拉致被害？約30人を鑑定」 特定失踪者問題調査会代表 「救う議員の会」で明かす めぐみさん両親ら講演 きょう八尾で		1.28	
	30	（投書）経済制裁には冷静な判断を （投書）祖国への信頼また裏切られ		0.45	5	韓国 与党議員にスパイ疑惑 北の工作機関に所属，服役			e-1	対北朝鮮 政府，“最後通告”検討 不明10人情報期限を設定 不十分なら制裁			e-12	めぐみさん 「スクヒ」に日本語指導 地村富貴恵さん証言 女性工作員か			
	e-1	町村外相の訪朝検討 2月末以降 拉致問題を追及 政府	3.78		13	「北」はベルリンの壁崩壊直前と同じ状況 日本はいかなる役割果たすべきか （投書）「遺骨」鑑定した労苦に感謝			e-3	W杯北朝鮮戦は金日成競技場で サッカー最終予選		2.1					
	e-11	「横田めぐみさんも日本語教えていた」 地村さん証言　関係者明かす			e-1	北「必要な便宜は保障」 W杯サッカー「北」とアウエー戦 人工芝　金日成スタジアム有力 サポーターは行けるの？ 大量の渡航，輸送力に限界も 対北経済制裁「先の話でない」 自民幹事長		1.28	e-9	拉致問題などを米副長官と協議 川口首相補佐官	0.36						
					e-9	日本人拉致事件 北「必要な便宜　すべて保障」 朝鮮中央放送 「遺骨別人」言及なし	0.78		e-11	横田さん 工作員？に日本語教育 女性の「スクヒ」 地村富貴恵さん証言							
12.12	1	朝鮮半島有事で自衛隊 工作員侵入に単独対処 日米共同作戦で想定 「5055」計画 2年前に調印 ・定数減に抵抗 ・計画穴だらけ			2	北朝鮮経済制裁腹くくるべきだ 自民幹事長		0.4	1	対北朝鮮経済制裁 「賛成」72%		0.32	2	拉致問題 首相書簡で抗議へ 不明10人 来春期限に情報要求	0.72		
									31	北朝鮮の秘密知った　めぐみさん 工作員教育係・田口さんと 「2年同居」と証言 地村さん妻 「我慢の限界」			5	「北への経済制裁米中韓と連携を」 自民幹事長			0.32
													10	「遺骨」めぐみさんとは別人			

	2	自民幹事長が経済制裁容認		0.32						八尾で両親ら拉致救出集会	0.32			8日		
	38	旧日本軍徴用の朝鮮人問題								強制連行指摘し日本政府を非難				・政治		
		遺骨対応 南北で差								北朝鮮の団体				「遺骨」は別人		
		外交文書で判明												「戻ってしまおうかと」		
		朝鮮半島出身者の遺骨												「どんなに残酷で，冷酷か」		
		経済制裁の是非議論		0.18									25	（投書）「経済制裁」して拉致問題解決を	0.32	0.32
		家族「リスクも覚悟」											38	めぐみさん両親ら「対北経済制裁を」		0.32
														八尾で集会		
12.13					e-1	めぐみさんの「遺骨」別人問題			e-1	安否不明10人の生存前提に交渉			e-12	「安否不明10人の帰国要求を」		
						日韓首脳会談で協議				阿部幹事長代理公園			e-14	横田めぐみさん		
														「帰りたい」90年代に訴え		
														拉致被害者証言	0.32	
														田口さんと84－86年同居		
12.14	4	北朝鮮への食糧支援			5	対北経済制裁		1.8	5	民主			1	「北制裁すべき」74%		2.1
		「国際機関要請あっても凍結」				政府，自民　揃わぬ足並み				「脱北者保護 国の責務」				本社世論調査		
		「北朝鮮の対応見極めて対処」				人道支援の即時凍結要求				北朝鮮人権教済法案固まる				内閣支持率下落45%		
		制裁論巡り小泉首相		0.18		民主が決議				資料分析来週に結果			3	（社説）北朝鮮人権法		
	7	韓国企業団地 北朝鮮であす始動				北朝鮮経済制裁をめぐる主な発言		0.21	29	「一刻も早く助けないと」				もっと圧力カードがあってよい		
		南北対話の起爆剤？				・小泉首相				「遺骨」正式鑑定に横田夫妻が会見			5	首相，北への経済制裁「判断難しい」		0.18
		北朝鮮				・中川経産相			e-9	『北朝鮮制裁は慎重に』		1.28		日韓首脳会談，17日に指宿市で		
		関心は「外貨獲得」				・安倍自民党幹事長代理				米国務副長官			38	めぐみさん「遺骨」		
		・太陽政策の柱				・久間自民党総務会長								鑑定3度　別人確定		
		・米朝関係も影				北朝鮮の欺瞞								警察庁		
		開城工業団地				平和憲法の呪縛から目を覚ませ								松本さんは他人5人分		
	38	松本さん「遺骨」「別の5人の骨」			16	友達がいない…つらい現実							e-10	経済制裁に慎重姿勢		0.72
		警察庁が家族に				日本に来た脱北者								対北朝鮮で米国務副長官		
					e-1	国務副長官										
						米，北制裁に慎重姿勢		3								
						小泡担当相と会談										
						「時期，方法に工夫を」										
						「制裁発動は日本の判断」		0.32								
						米報道官										
12.15	3	横田さん「夫」			3	「めぐみさん遺骨」は別人			3	北朝鮮への経済制裁		0.21	2	めぐみさん「遺骨」北，鑑定結果批判		
		本人特定断念へ				「鑑定は政治的脚本」				「検討」決議に共産賛成			5	参院拉致特委も経済制裁検討決議	0.36	0.32
		政府，DNA鑑定困難				北朝鮮が非難				参院委				共産も賛成		
		めぐみさん「遺骨」別人				対北経済制裁日本の決定支持		0.36		慎重姿勢から一転				めぐみさん「夫」断定は難しい		
		北朝鮮，結果捏造と非難				米国務副長官				北朝鮮				核問題で日中が役割分担		
	4	北朝鮮制裁検討決議に共産賛成		0.32	4	参院拉致委も経済制裁決議	0.32	0.32		「政治的脚本」と非難			6	韓国人牧師，北が拉致	2.1	
		参院委で採択				政府に検討求める				横田さん「遺骨」別人鑑定に				亡命支援		
	8	ブームに異変			17	（投書）国民レベルで「北」に怒りを			27	ジェンキンスさん，住民と交流				中国吉林省で，00年に		
		北京			19	支援制度なく，政府「知らぬ顔」			e-1	真意見極めたい			33	朝鮮総連機関誌に名誉傷つけられた		
		北朝鮮レストラン				韓国の脱北者支援				北朝鮮反論で首相				傘下組織の会長提訴		
		続々撤退			30	ジェンキンス氏英会話教室参加			e-9	北朝鮮制裁なら「支持」		3	38	ジェンキンスさん英会話教室を見学		
		従業員に本国命令				曽我さん近況語る				米国務副長官平沼氏と会談				曽我さん会見		
		外貨稼いで「上納」			e-1	「制裁に難色」を軌道修正		0.55		「慎重姿勢」を修正			e-12	日本の北制裁を支持		2.1
		憶測様々			e-11	対北経済制裁		0.78	e-10	脱北支援の牧師「北朝鮮が拉致」	0.32			米国務副長官		
		脱北者の多発嘆いた？				「日本の決断を支持」				韓国紙報道				「消極的ではない」		
		資本主義「汚染」警戒？				米国務副長官								南北協力特区で生産開始		
		北朝鮮レストラン				「難色」を軌道修正										
	37	朝鮮総連改革提言で「中傷」				めぐみさん遺骨「別人」										
		機関誌を提訴				北の非難に反論										
		朝鮮新報社の話				官房長官										
		曽我さんが会見				米との調整必要										
	e-12	北朝鮮制裁を容認		1.62		民主・岡田代表										
		米国務副長官														
		「真意はどこか見極め必要だ」														
		「捏造」反論に首相														
12.16	3	24日にも精査結果			4	政府，22日に北制裁協議		6.75	3	「6カ国協議の来月再開困難」			4	実務協議「北」誠意見せず		
		拉致「物証」	0.32			高まる世論				外務省幹部				安倍氏		
		北朝鮮に再抗議へ				圧力に“重い腰”上げる				韓国外相，北朝鮮制裁論に否定的		0.32		北との交渉意味ない		
	4	家族帰国を最優先 道筋狂う				「国民の怒り当然」				北朝鮮制裁論強まり核問題への影響懸念		0.36		岡田代表		
		検証 首相再訪朝				日韓シャトル便を増便				中国首相				国民にリスク説明を		
		・不明者問題 金総書記「死んだと聞いた」				羽田－金浦			5	共産「交渉での解決が前提に」				日朝実務協議		
		・山崎氏「NPT復帰，盛り込めないか」				首脳会談で合意へ				北朝鮮制裁で釈明		0.18	6	盧大統領		
		・政府関係者は早期交渉再開を信じた				中国，6カ国協議への影響警戒				経済制裁には米と調整不可欠		0.36		「北と対話」日本に要請へ		
		6者協議開催は「来年2月以降」			6	あす指宿で首脳会談				岡田代表				あすから日韓首脳会談		
		外務省幹部見通し				対北姿勢　日韓に温度差			24	「済州島と猪飼野」主題に				『拉致』制裁論に懸念	1.36	1.36
		「核問題が急務影響ないよう」				新たな摩擦要因懸念				在日朝鮮人研究会全国大会			7	北京の韓国人学校に駆け込み		
		拉致問題で中国首相	0.32			韓国人学校に脱北者4人				コリアタウン見学も			13	日韓首脳会談		
	7	北京の韓国学校脱北？4人駆け込み			18	家族への賛金工面考え，眠れぬ夜				18日，府立桃谷高校				対北融和打ち出す盧政権問われる「強調」の		
														のあり方		
		調理鍋を出荷ソウル店頭に			19	（投書）経済制裁前に危機への備え		0.32	e-10	「遺骨別人なら関係者を処分」						
		北朝鮮・開城工業団地								NGOに労働党幹部						
12.17	2	北朝鮮			2	（社説）対北制裁決議		0.5	1	対北朝鮮制裁		2.16	2	チャーター機増便		

		「鑑定結果認めぬ」 めぐみさん「遺骨」で回答		3.78		国民の結束を外交武器に めぐみさん「遺骨」鑑定 北「認められぬ」	0.6			日本の慎重姿勢「適切」 単独会見				ビザ免除恒久化 日韓「500万人交流」 国交正常化40周年向け		
	4	対北朝鮮 **高まる経済制裁論** 遺骨問題 政府，選択肢狭まる 北朝鮮の否定「常套手段だ」 警察庁長官				政府 来週，資料を提示へ				韓国大統領が評価				首脳合意へ		
					6	**拉致と「6カ国」区別を**			3	盧武鉉大統領単独会見 **制裁 やんわりとクギ**		6.29		北の核問題「節目」必要 町村外相		
					22	40年…親類・知人とも距離				日本世論に配慮				「遺骨」別人		
					e-1	脱北者7人駆け込み 北京の日本人学校				**慎重論と制裁 揺れる政府**		1.28		北朝鮮「鑑定認めず」		
										盧武鉉（ノ・ムヒョン）氏			5	遺骨鑑定 「北」の反応に政府反発 対話の可能性も探る		
	7	中国の地方幹部免職公金で北朝鮮カジノ				脱北者駆け込み				国の運命自ら開く決意 外信部長 中井良則						
	e-1	日本人学校に脱北者？ 北京大使館が7人保護								北朝鮮 「別人」の鑑定否定 めぐみさん「遺骨」 日本公使は抗議				北，虚構のシナリオ崩壊		
	e-14	脱北者？駆け込み 出国に向け調整へ 日本政府 中国の対応に期待							5	（社説）日韓首脳会談			9	日韓経済“寒流”？ 通商分野　互いに強硬 FTA交渉　疑心暗鬼 きょう首脳合意		
									6	独学で弁護士に／弾劾訴追に負けず／世代対立を招く 盧大統領 一問一答 謙そん寛大な日本が重要 ・日韓関係 **・北朝鮮制裁論** 北朝鮮と忍耐強く対話を ・北朝鮮の核問題 ・対話と圧力 ・南北首脳会談		0.18	e-1	「脱北」7人駆け込み 北京の日本人学校 韓国行き希望		
													e-17	「脱北者」駆け込み 政府，7人の人定急ぐ 第三国経由の出国検討		
									7	韓国大統領会見 南北首脳会談に消極的 6カ国協議へ影響懸念か 核問題解決 「主導的役割果たす」				日韓首脳午後会談		
									e-9	鹿児島で午後日韓首脳会談						
									e-11	日本人学校に脱北？7人 北京						
12.18	1	盧大統領 **経済制裁「慎重に」** 日韓会談 対北朝鮮影響を懸念		3.78	1	日韓首脳会談 6カ国協議　早期に開催 **経済制裁** 慎重対応で一致		1.28	1	対北朝鮮 **首相，制裁論に初言及** 日韓首脳会談 「6カ国」早期再開 年間相互往来500万人で一致		7.02	1	**首相，対北制裁に言及** 日韓首脳会談 盧大統領「慎重対応を」		4.35
	3	米ブッシュ政権 北朝鮮の体制存続容認 2期目方針 内部変革求める			2	（社説）日韓首脳会談 甘さ残した北朝鮮合意 北めぐり苦慮の首相に助け舟 盧大統領			3	北朝鮮向け 共通メッセージ **拉致，核 揺けぬ展望** 日韓首脳会談	7.83		3	日韓首脳会談 **対北制裁に温度差** 「圧力」の日本「対話」の韓国 （社説）日韓首脳会談 「北」の分断策封じる連携を図れ		7.2
	4	FTA交渉 来年内妥結で日韓首脳合意 共同会見要旨 ・北朝鮮問題				日韓首脳会談 in 鹿児島 征韓論“独り歩き” 「侵略的意図持つ国」 温泉交流は不発 首脳会談の要旨 ・北朝鮮問題				日韓調整 宿題は先送り 共同記者会見 要旨 ・北朝鮮問題			4	日韓共同記者会見と首脳会談の要旨 ・拉致問題 ・北朝鮮の核問題 福田前官房長官に聞く **拉致打開へ　訪朝に必然性** 砂蒸し風呂首相たんのう “裕衣談義”実現せず	0.18 2.1	
	7	盧大統領，外交に活路 対北・対米で刺激的発言 駆け込み方法 大胆に 北京・日本人学校 警備かいくぐる			7	韓国亡命者の保護不十分			e-1	6カ国協議の早期再開へ連携 日韓外相会談			7	越の仏大使館へ脱北者駆け込みか		
	8	韓国が裕衣懸念砂むし風呂断念 日韓首脳会談 デポドン2テスト懸念 米国務次官補 「北朝鮮，開発続ける」			13	1月29日にカザフ戦　2月2日シリア戦 北朝鮮にらみ強化試合 サッカー日本代表 W杯最終予選突破へ スタートダッシュ狙う 「6月敵地で決める」			e-9	散策，お茶会親交温める 日韓首脳 「テポドン発射いつでも可能」 米国務次官補			24	ジーコ日本 強化試合2ゲーム W杯最終予選 北朝鮮前に		
					e-1	北朝鮮対応 日韓外相も連携確認 テポドン2号「発射は可能」 米国務次官補							e-1	**日本　拉致解決協力求める** 外相会談 韓国は慎重対応要請	1.36	

資料2　「見出し」の印象効果に関するアンケート

「見出し」の印象効果に関するアンケート

私たちは，新聞記事の「見出し」が生み出す潜在的な印象効果についての研究をしています．

2002年9月17日，平壌で開かれた日朝首脳会談において，北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の金正日総書記が13人の日本人を拉致した事実を認め，謝罪しました．

2004年11月には「第三回日朝実務者協議」が行われました．そこで，北朝鮮側から未だ行方不明の日本人10名の安否情報と，「横田めぐみさんの遺骨」が提出されました．しかし，その「遺骨」を日本でDNA鑑定したところ，横田さんとは別人のものであることが判明しました．

このことをきっかけに，日本国内では北朝鮮に対して「(経済）制裁」を発動するかどうかが議論されるようになりました．

そのことを報道する新聞見出しの印象効果を研究するため，みなさんにアンケートのご協力をお願いします．

関西大学大学院社会学研究科
木村洋二ゼミ
板村英典・池信敬子

《質問》

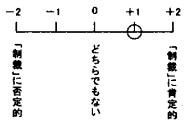
次ページ以降に挙げたものは，いずれも北朝鮮に対する「(経済）制裁」を報じた新聞記事の見出しです．それぞれの見出しを見て，「制裁」の発動について肯定的か否定的か，どちらのニュアンスを感じますか．次の5つの選択肢から選んで○印をつけてください．

（あまり深く考えず，どんどん先に進んでください）

＋2　…　肯定的（支持する）ニュアンスを感じる
＋1　…　どちらかといえば肯定的（支持する）ニュアンスを感じる
0　…　どちらでもない
－1　…　どちらかといえば否定的（不支持の）ニュアンスを感じる
－2　…　否定的（不支持の）ニュアンスを感じる

〈記入例〉

北朝鮮への「制裁」の発動に対して，「どちらかといえば肯定的」と感じた場合



（アンケートは17ページまであります）

(4)

「遺骨」めぐみさんと別人

揺らぐ対話路線

首相、制裁即断避ける

−2 −1 0 +1 +2

強く肯定的 どちらでもない 強く否定的

3

(3)

「拉致」強く強調 首相「ひかれる」

−2 −1 0 +1 +2

強く肯定的 どちらでもない 強く否定的

(2)

主権侵害強く強調 首相「交渉迫られる」

−2 −1 0 +1 +2

強く肯定的 どちらでもない 強く否定的

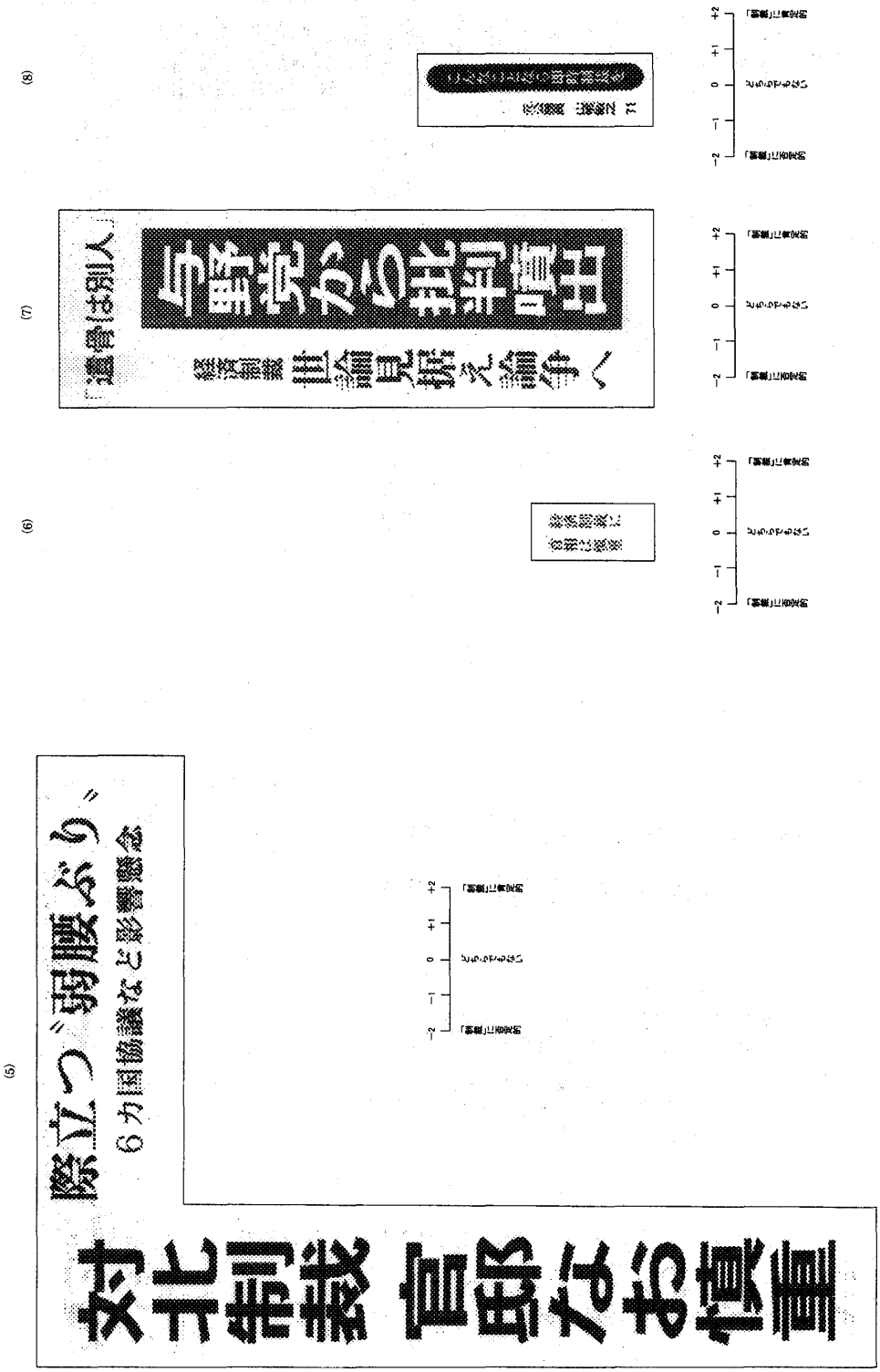
(1)

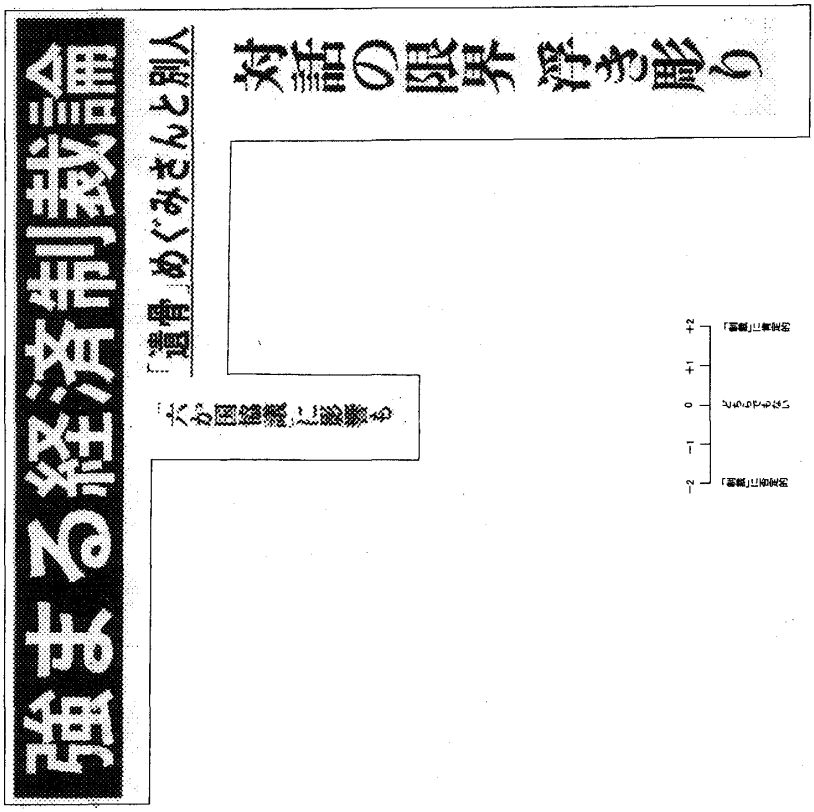
強く肯定的 強く否定的

−2 −1 0 +1 +2

強く肯定的 どちらでもない 強く否定的

2

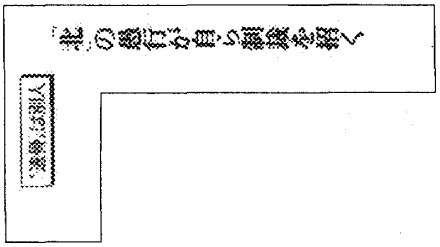

(5)
社説 重要な概要
際立つ"弱腰ぶり"
6カ国協議など影響懸念
(6)
(7)
「遺骨は別人」
与党からの批評
自衛隊を海外派遣
(8)

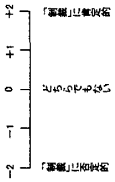

強まる経済制裁論
人権問題
「過剰」めぐみさんと別人
対話の窓口 動き鈍の

改善が見られない
どちらともいえない
改善が見られる
−2
−1
0
+1
+2

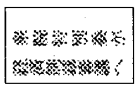
(12)

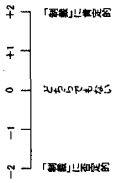
7


人権問題

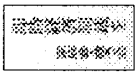

改善が見られない
どちらともいえない
改善が見られる
−2
−1
0
+1
+2

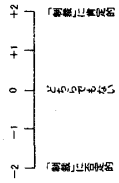
(11)




改善が見られない
どちらともいえない
改善が見られる
−2
−1
0
+1
+2

(10)

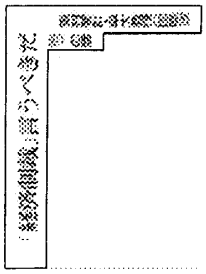


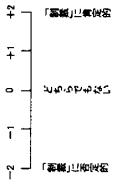

改善が見られない
どちらともいえない
改善が見られる
−2
−1
0
+1
+2

(9)

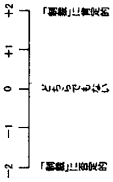
6

(13)

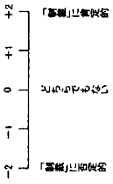



「基礎」は軟弱化
どちらかといえば
「基礎」は軟弱化
−2
−1
0
+1
+2

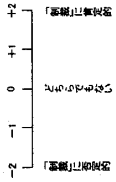
(14)


「基礎」は軟弱化
どちらかといえば
「基礎」は軟弱化
−2
−1
0
+1
+2

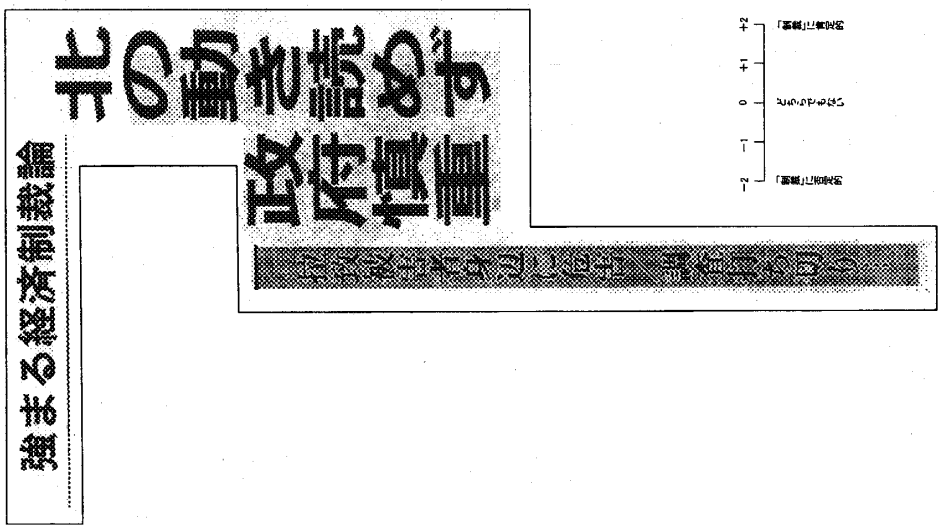
(15)


「基礎」は軟弱化
どちらかといえば
「基礎」は軟弱化
−2
−1
0
+1
+2

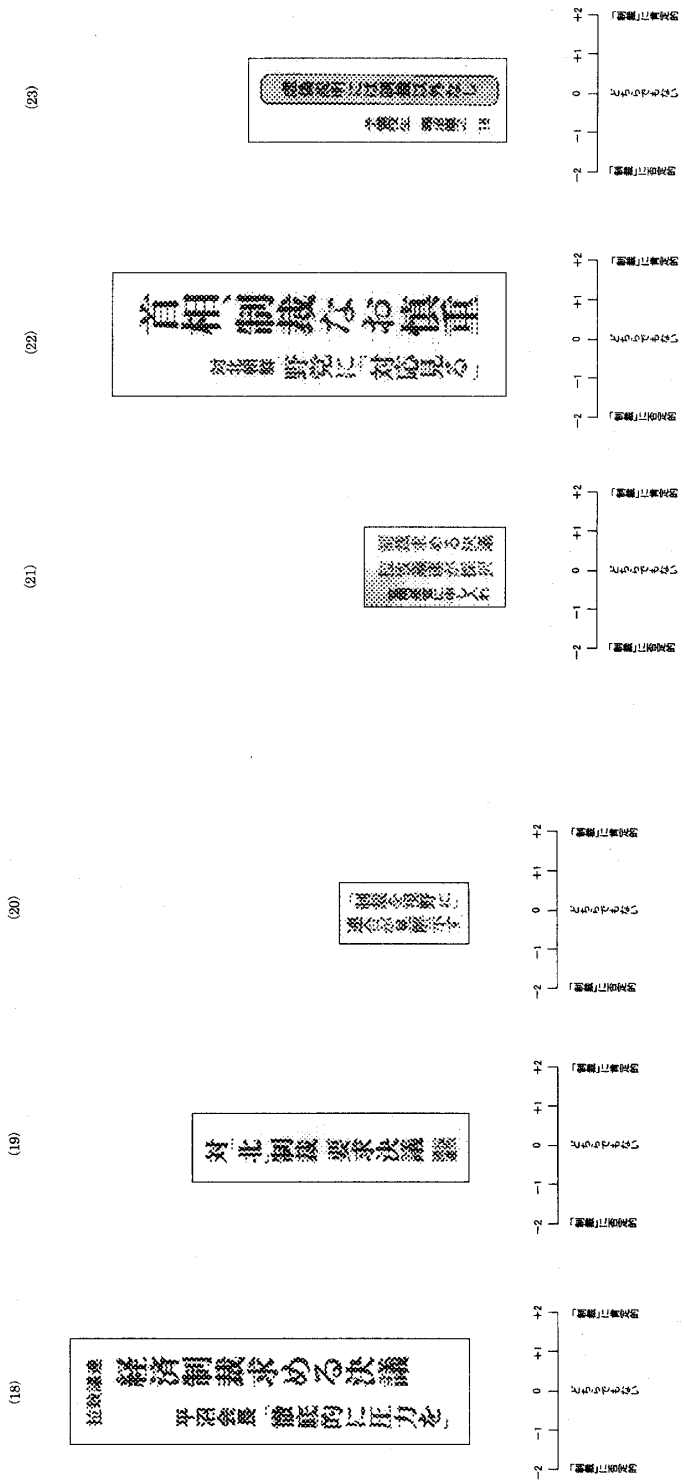
(16)


「基礎」は軟弱化
どちらかといえば
「基礎」は軟弱化
−2
−1
0
+1
+2

(17)

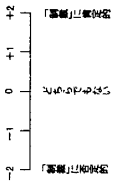


「基礎」は軟弱化
どちらかといえば
「基礎」は軟弱化
−2
−1
0
+1
+2


(18)
(19)
(20)
(21)
(22)
(23)
+2
+1
0
−1
−2

(24)

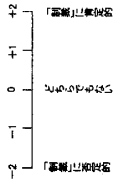
◆社会部会　政調会総務会決定



(25)

自民党党本部決議

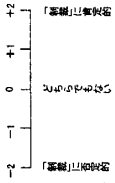
「北朝鮮拉致 実動を」



12

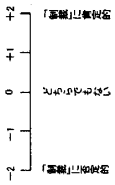
(26)

政府、国会議員、関係団体

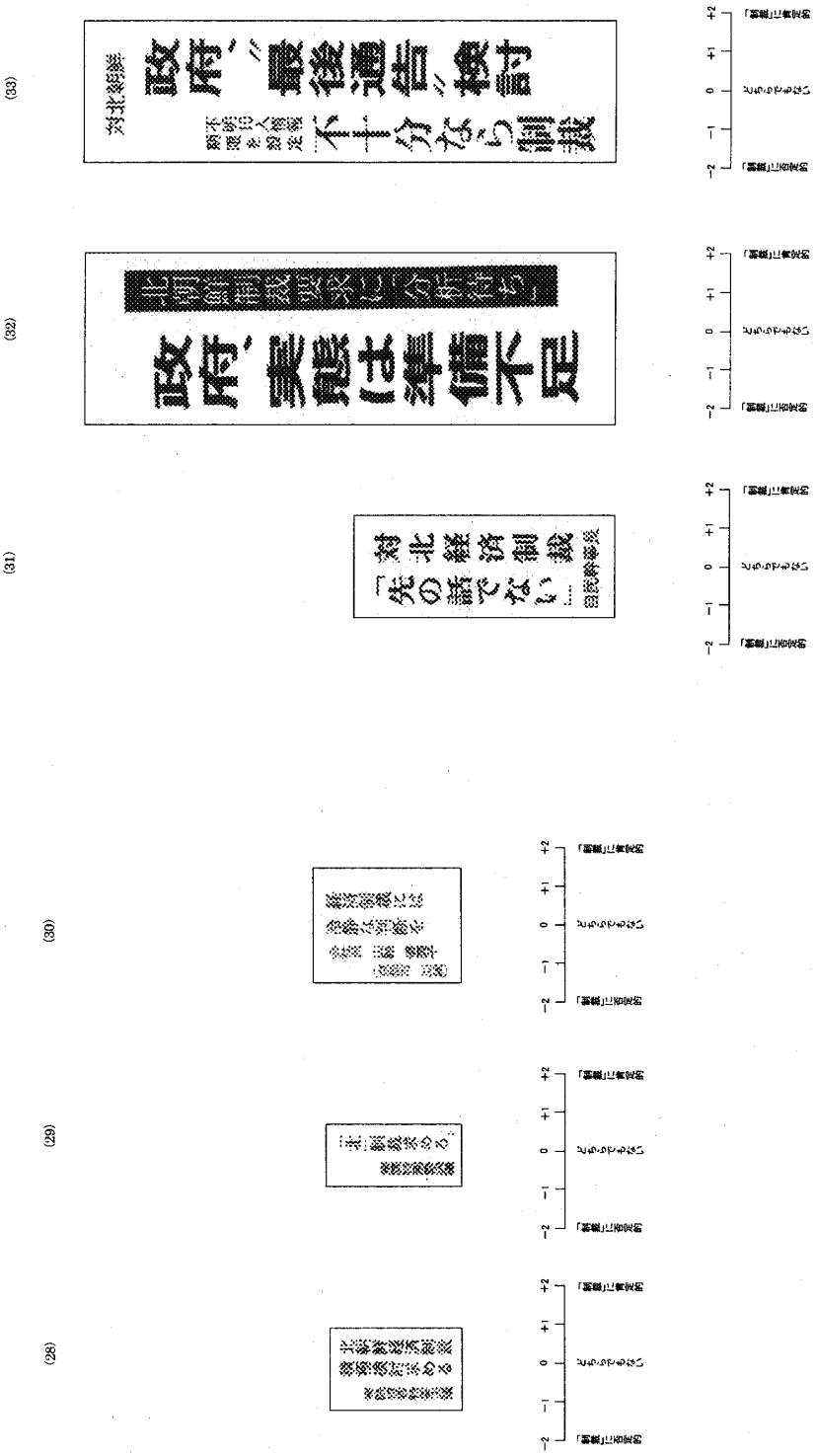


(27)

関係者「北朝鮮を」



13


(28)
(29)
(30)
(31)
(32)
(33)
−2
−1
0
+1
+2
「無罪」
どちらでもない
犯罪事実
14
15

(36)

首相、慎重姿勢崩さず

衆参予算委 決議採択 閣僚らも「北制裁を」

−2 −1 0 +1 +2

「賛成に積極的」 どちらでもない 「賛成に消極的」

(35)

首相「交渉は続ける」

経済制裁論が噴出

−2 −1 0 +1 +2

「賛成に積極的」 どちらでもない 「賛成に消極的」

(34)

横田さん家族、許せぬ！

家族会「即時経済制裁を」

−2 −1 0 +1 +2

「賛成に積極的」 どちらでもない 「賛成に消極的」

◇最後にお聞きします

◆あなたの年齢と性別，現在の住まいを教えてください．

・年齢 （　　）歳

・性別 （ 男 ・ 女 ）

・住まい（ 自宅 ・ 下宿 ）

◆あなたは普段新聞を読んでいますか？ 〔 はい ・ いいえ 〕

（「はい」を選んだ方）それは何新聞ですか？（複数回答可）

〔 朝日 ・ 産経 ・ 毎日 ・ 読売 ・ その他（　　）新聞 〕

◆あなたの家では新聞を購読していますか？ 〔 はい ・ いいえ 〕

（「はい」を選んだ方）それは何新聞ですか？（複数回答可）

〔 朝日 ・ 産経 ・ 毎日 ・ 読売 ・ その他（　　）新聞 〕

（「いいえ」を選んだ方で下宿の方）ご実家で購読されている場合，それは何新聞ですか？（複数回答可）

〔 朝日 ・ 産経 ・ 毎日 ・ 読売 ・ その他（　　）新聞 〕

◆アンケートについてに気づいた点や感想などがありましたらお書き下さい．

〔　　〕

アンケートは以上です．ご協力ありがとうございました．

関西大学大学院社会学研究科
木村洋二ゼミ
板村英典・池信敬子